

令和4年度 事業・活動報告



社会福祉法人 大阪手をつなぐ育成会

目次

法人の事業・活動の概要	1 ページ
研究所	15
社会政策研究所	
相談	16
大阪育成会相談センター	
中	21
支援センター中	
ホームズ中央	
あまみ	31
支援センターあまみ	
ホームズあまみ	
い～な	41
ゲーテン	
ホームズみのお	
ホームズい～な	
さくら	49
支援センターさくら	
ホームズさくら・なでしこ	
就労支援統括センターみいーん	
しらさぎ	66
支援センターしらさぎ	
ホームズしらさぎ	
ねぎぼうず	74
支援センターねぎぼうず	

法人の事業・活動の概要（案）

法人の経営理念

みんなが みんなと みんなへ「手をつなぐ」

ロゴマーク つなぐちゃん



みんなが みんなと みんなへ「手をつなぐ」の理念を、
つなぐちゃんマークとともに毎月発行の情報紙「太陽の子」の冒頭に掲げました。

法人の事業・活動報告

令和4年度も第6波、第7波、第8波と一年を通して新型コロナウイルス感染症の影響を受けた一年でありました。感染症対策をこれまでも増して施したにもかかわらず、会員および法人内事業所の利用者および職員のみなさんにおいては多くの感染者が発生しました。それら感染者は医療ケアを受けられず、法人内各事業所においても感染した利用者を事業所内で隔離療養せざるを得ませんでした。また、各支部における活動も思うように捗らない状況が続き、年間を通しての活動制限、コロナ感染予防対策、陽性者支援など、一連のコロナ対応を行いながら、事業においては通常のサービスを維持継続するという点で、非常に厳しい年度であったと振り返ります。

そんな中活動面においては、今年度も引き続きWEBを最大限活用し、支部代表者連絡会、わかりやすくセミナーの配信を行いました。支部代表者連絡会やその他会員交流行事についても、感染予防対策を施しながら、年間を通して実施することができました。とりわけ活性化セミナーおよび育成会活動本部会議で取り組んだ大阪府への要望作成は、家族や当事者の声を最大限盛り込むことができ、その作成の過程から育成会活動の意義やあり方を改めて問うものでありました。9月には、第63回大阪知的障がい者福祉大会（堺大会）を2年ぶりに参集型で開催することができ、本人大会も含めて久しぶりの再会につながりを再確認したものです。また、国連障害者権利条約批准後の国内施行状況への対日審査に関する情報や、障害者総合支援法とその関連法の改正に関する情報などを収集し、随時発信しながら会員のみなさんと共有を行いました。そして、全国手をつなぐ育成会が推奨する支援学校保護者向け【障害基礎年金学習会】を、新規会員獲得の一助として育成会活動の活性化をねらい積極的に実施しました。さらには、知的障害のある人の理解啓発を行うべく【心のバリアフリーフォーラム】を大阪府より受託し、11月に実施することができました。

他方事業面では、新型コロナウイルスについてこれまでの経験を踏まえた対応方策として、陽性者支援チーム【新型コロナ法人タスクフォース】を仕組み、同時多発的に発生する陽性者の事業所内支援に法人職員が横断的に対応しました。また、新型コロナ法人対策指針を再三改訂し、まん延状態が緩んだ折には支援や活動の幅を広げるなど、時勢を捉えながら本人中心の視点を保ちつつ支援に取り組みました。また、グループホームでの生活の質の向上をねらい、定員や住居などの再編を引き続き行いました。支援センターあまみ

においては、地域で住まう知的障害のある人への支援を行う【自立生活援助事業】を新設し、広く地域に住まう障害のある人への支援へと乗り出しました。建物や設備の老朽化が進む支援センターしらさぎにおいては、建替えを念頭に再びプロジェクトチームを発足しての検討をスタートさせ、建築士による基本設計までを実施しています。継続の課題である人材確保については、引き続き新卒人材の採用を行うべく積極的に取り組みました。また、グループホーム世話人についてはその雇用上限年齢を引き上げるとともに、長年据え置いてきた賃金についても改善しました。さらには、国が行う職員への処遇改善策としての【ベースアップ加算】を取得し、職員の処遇改善にも取り組みました。

経営面においては、引き続き課題改善に向けて取り組んでいます。各事業所の経営課題を抽出し、経営会議を中心に年間を通してその改善策の進捗を管理しました。また、相談支援事業の集約に引き続き取り組み、支援センターあまみについては、利用者に負担をかけないよう配慮調整したうえで、9月をもってその事業を廃止しました。そして、これまで取り組んできたスワンカフェ&ベーカリーの経営改善については、ロスパンを活用するリベイク商品の販売を本格的に開始するとともに、これまでの振り返りを行いながら次のステージへ向かうべく、プロジェクトチームを編成して経営改善策の検討を再び開始しました。さらには、不安定な社会情勢から物価が高騰する中で、コスト管理に注力するとともに、行政からの支援を適宜申請受給しました。電気代の高騰対策として、高電圧供給事業者の見直しも行いました。また、資産運用と地域貢献策として大阪市グリーンボンドへの出資を行いました。事業継続計画【BCP】については、各事業所において実効性のあるものへと精査するとともに、職員および利用者への【安否確認アプリ】をさらに活用するべく運用しました。そして、業務遂行上様々なリスクに向き合う役員をまもるため、役員賠償責任保険に加入し、その費用の一部を法人として負担しました。

このような中、26年4月策定の大阪手をつなぐ育成会将来構想ふるむわん＝つな^ぐgood計画に基づく6つの重点分野に加え、令和元年度に新たに2つを追加し、以下のとおり8つの事項を定め、各種事業を実施しました。

- ・安心安全の地域生活支援
- ・働くことの質をささえる就労支援
- ・豊かな感動を生む芸術やスポーツへの支援
- ・周囲の人々に適切に理解される家族支援
- ・具体的で実効性のある意思決定支援
- ・人としての生活を保障する所得保障支援
- ・職員との対話を重視した事業運営
- ・収支の均衡を図った事業運営

法人の具体的な事業について大阪手をつなぐ育成会将来構想の5つの事業部門(生活支援、就労支援、人材支援、地域支援、法人・団体支援)に沿って報告します。

生活支援部門

- コロナ感染症への対応⇒予防、ワクチン接種、感染者対応など様々な支援。職員や利用者の感染により、法人内職員の横断的な協力体制“タスクフォース”を実施しました。
- ホームの再編⇒ホームズ中央、ホームズい～なにおいて、利用者の状態に合わせて、利用者のホーム間転居や、それに伴う住居の廃止など、ホームの再編を行いました。
- グループホームでの貴重金品等預かりサービスの本格的導入⇒中央、い～な・みのお、さくら・なでしこ、しらさぎ、あまみの各ホームズで、貴重金品の管理業務を正式に開始しました。
- 相談支援事業の集約⇒支援センターあまみでの事業廃止、い～なおよびさくらでのケースの整理を行いました。
- 自立生活援助事業の開始⇒地域における単身生活者への支援。地域資源として機能するべく事業を開始しました。
- 無印良品コトキクラブコラボレーション⇒グーテン作品展開催への無償による場所提供と、広報の提供を受けました。

就労支援部門

- 法人内就労支援の質の標準化⇒就労支援技法の基礎となるフォーマットツールを試験的にさくらに導入。法人内支援の標準化を目指して取り組みました。
- 就労支援啓発セミナーの実施⇒法人内横断的な取り組みとして、支援学校保護者を主な対象として、啓発セミナーをシリーズでリモート開催しました。
- 利用者数などの実勢に合わせて定員変更⇒しらさぎ、中、さくらにおいては、利用者数や状況に応じて、多機能事業の定員変更を都度に行いました。
- 自主製品の販売促進と工賃向上⇒各事業所において支払い工賃の用途を設定し、その向上に取り組みました。また、中、ねぎぼうずにおいてはSNSやホームページを活用し、自主製品の販売促進に努めました。

人材支援部門

- わかりやすくセミナーの内容精査⇒会員の声を聞くとともに、府への要望と紐づく形の内容を精査し実施しました。また、非会員向けの公開セミナーを2回実施しました。
- 人材確保⇒新卒人材確保について引き続き注力しました。世話人給与を改善し、その確保に努めました。
- 人事考課制度の改定⇒非正規職員の評価の仕組みや正規職員の降格規程について改め、適正な評価を行うべく改定を行いました。
- ベースアップ加算取得⇒介護福祉人材への国の支援を申請受給し、年間を通して職員の処遇改善に努めました。

地域支援部門

- 障害基礎年金学習会⇒全国手をつなぐ育成会が推奨する学習会を、支援学校向けに積極的に実施し、広く情報提供を行いました。
- 第63回大阪知的障がい者福祉大会⇒堺市ビッグ・アイにて参集型による開催をしまし

た。本人大会についても2年ぶりに開催しました。

- 本人活動支援⇒ともだちの会を年間通して実施しました。また、全国大会本人部会へのWEB参加や、西日本の本人の会とのWEBでの交流も行いました。
- 育成会活動の活性化⇒年金学習会の積極的な実施や、丁寧な積み上げによる府への要望作成、大阪市育成会との懇談や要望作成への協働などを行いました。
- 全国手をつなぐ育成会連合会との連携協働⇒コロナ感染予防物資提供事業への協力、国への要望と紐づく形での大阪府への要望作成を行いました。
- 大阪関西万博計画協議への参画⇒交通アクセス、接遇サービス、日本政府館運営、大阪パビリオン運営、大催事場運営、弁天町駅改修などの知的障害への配慮を提言しました。
- 情報提供⇒QRコードの活用など、支部代表者連絡会資料の一部デジタル化を進めました。

法人団体支援部門

- 関係団体への参画や支援⇒ODF、堺市相談支援ネット（堺市相談支援ネット企画チーム会議など）、エル・チャレンジといった関係団体へも引き続き参画しています。
- 各種協議会審議会への参画⇒大阪府の協議会や審議会などへの参画、市町村協議会などへの職員の派遣を引き続き行いました。また各支部における参画状況を集約しました。
- 大阪府福祉のまちづくり条例及びガイドラインの改定への参画⇒知的発達障害のある人への配慮について提言し、大阪府独自のガイドライン完成に至りました。
- 心のバリアフリーフォーラムの受託運営⇒知的障害のある人への理解促進事業を大阪府より受託し、フォーラムの企画運営を行いました。

今後も、大阪手をつなぐ育成会将来構想「ふろむわん＝つな^{グッド}good計画」を軸に、知的障害者への支援に取り組み、誰もが住みやすい社会づくりに、引き続き会員や職員、関係者の力を結集していくことにしています。

法人の行動指針

○ノーマライゼーションの浸透

障害があってもなくてもあたり前に暮らすこと。知的な障害のある人やその家族にとってあたり前に暮らすとは、その当事者と同世代同性の多くの人々の暮らしをそのまま実現することです。家庭や地域、学校、職場などで適切に参加するための支援を具体化することです。

○エンパワメントの確立

知的な障害のある人やその家族の思いを大切に、その人らしさや機能の可能性を最大限に引き出すこと。残念ながら現状の社会は知的な障害を否定的に捉え、抑圧を加えたり体験の機会を奪ったりしてしまいます。このことがらに気づき、その人らしさや持ち合わせている力を発揮できる条件を整えることです。

○アドボカシーの推進

周囲の不当な侵害からその人の権利を擁護すること。組織や社会が有しているストレ

スや軋轢は、弱い立場の人に向かいそのはけ口となりやすい構造になっています。地域にしっかりとしたセーフティネット（安心網）を張り巡らし権利擁護を進めていくことが必要です。

○マネジメントの活用

ニーズと資源を適切に把握した経営・管理をすること。限られた財源や資源の中で、それらを有効に活用することが組織にも、制度にも、また社会や地球環境にも求められています。安定的な持続可能な仕組みを維持するために視野を広くして事業運営することです。

組織図

評議員会——育成会活動本部会議——支部組織・会員

| (わかりたくすセミナー：支部代表者連絡会、就労支援、生活支援、社会
| 参加、権利擁護、活性化、本人部会)

理事会

| ——将来構想推進委員会・情報管理委員会・虐待防止、身体拘束禁止委員会・事業
| 継続（防災含）委員会・感染症対策委員会・苦情解決第三者委員ほか

理事長

常務理事——事務局長

| | —事務局 管理部（総務、人事、企画）、事業部（生活支援、就労支援
経営会議 | 相談支援）、活動部（育成会活動、地域貢献）

| | 事務局分室

所長会議 | 中央支援センター（相談支援・保育所等訪問・早期療育支援）

| —社会政策研究所

| わかりたくす工房

| —支援センター中（生活介護・就労継続支援B型）

| ホームズ中央（グループホーム）

| ヘルパーステーションなか（居宅介護・移動支援）

| —支援センターあまみ（相談支援）

| あまみ・ピカ☆イチ（就労継続支援B型・就労定着支援）

| 訪問型職場適応援助者

| ホームズあまみ（グループホーム・自立生活援助）

| —支援センターい〜な（相談支援）

| グーテン（生活介護）

| ホームズみのお（グループホーム・短期入所）

| ホームズい〜な（グループホーム）

| ヘルパーステーションかやの（居宅介護・移動支援）

| —支援センターさくら（相談支援）

- | 就労移行支援・自立訓練・就労継続支援 B 型・就労継続支援 A 型（スワンカフェ&ベーカリー大東店）・就労定着支援事業部・短期入所
- | ホームズさくら、ホームズなでしこ（グループホーム）
- | 就労支援統括センターみいーん
- | 障害者就業・生活支援センター
- | 訪問型職場適応援助者
- | ー支援センターしらさぎ
- | 就労移行支援・就労継続支援 B 型・自立訓練・就労定着支援事業部
- | 訪問型職場適応援助者
- | ホームズしらさぎ（グループホーム・短期入所）
- | ー支援センターねぎぼうず（生活介護）

組 織

8 ブロック（北大阪、北河内、中河内、南河内、堺市、泉州、大阪市、本人の会）に計 43 支部を組織しています。

支部会員 1,489 名 個人会員 31 名 団体会員 1 団体
 プレミアム会員 2 名 賛助会員 11 名 団体賛助会員 3 団体
 （令和 5 年 3 月末現在）

会員相互に意思の疎通を図りながら、意志高揚とともに連帯を深めつつ、組織を通じて効果的な活動を進めるとともに、賛助会員を積極的に募り、会活動の支援と活性化を図りました。また、会費による財政基盤の確保を図り、本会事業・活動の啓発活動を推進して、寄付金、助成金の確保に努めました。

助成金・寄付金・寄贈品

行政や助成団体等から、多額の助成金やご寄附・ご寄贈をいただきました。ありがとうございます。主なものは、ジェイアイシーウエスト株式会社様から 300,000 円、株式会社小松製作所様から 100,000 円をはじめ、大阪府被服工業組合様より作業服など、合計 37 件の個人や企業・団体様からの寄付金合計 9,211,748 円をいただきました。なお、大阪府共同募金会様からは令和 3 年 10 月に実施された NHK 歳末たすけあい募金の配分金として 2,180,000 円をいただいています。ご寄付をいただきました府民の皆さまに感謝いたします。重ねてお礼申し上げます。

行政や助成団体等から、多額の助成金やご寄附・ご寄贈をいただきました。ありがとうございます。

活 動

理事会（定数 10 名） 4 月 14 日、5 月 30 日、6 月 9 日、7 月 14 日、8 月 18 日、10 月 13 日、11 月 17 日、1 月 12 日、3 月 9 日、3 月 28 日の計 10 回開催しました。

評議員会（定数 13 名）6 月 14 日、9 月 13 日、12 月 13 日、3 月 28 日の計 4 回開催しました。

評議員選任解任委員会 実施はなし

育成会活動本部会議 4 月 12 日、5 月 10 日、6 月 14 日、7 月 12 日、8 月 9 日、9 月 15 日、10 月 11 日、11 月 8 日、12 月 13 日、1 月 10 日、2 月 14 日、3 月 14 日の計 12 回開催しました。

大阪府市育成会役員懇談会 1 月 10 日

将来構想推進委員会 大阪手をつなぐ育成会将来構想「ふろむわん＝つなぐ^{ぐっど}good計画」の進捗管理を 3 月 9 日の理事会で行いました。

経営会議 4 月 14 日、5 月 12 日、5 月 30 日、6 月 9 日、7 月 14 日、8 月 18 日、9 月 16 日、10 月 13 日、10 月 21 日、11 月 7 日、11 月 17 日、12 月 15 日、1 月 12 日、1 月 23 日、2 月 9 日、3 月 9 日の計 16 回開催しました。

新型コロナウイルス感染症対策法人本部会議 8 月 18 日、9 月 15 日、12 月 28 日、3 月 9 日の計 4 回開催しました。

情報管理委員会 9 月 29 日に実施しました。苦情解決事案およびヒヤリハット等について報告を行いました。

事業継承、感染症対策、虐待防止・身体拘束禁止委員会 9 月 29 日に実施しました。各事業所における事業継続計画を共有しました。虐待認定事案とヒヤリハットなどを共有しました。

苦情解決システム 法人全体の苦情解決システムの一環として、事業所ごとに苦情受付担当者・苦情解決責任者を配置するとともに、引き続き 2 名の第三者委員を配置し、適宜巡回相談を行いました。

職員研修体制 法人全体の職員研修として、6 月 15 日に人権研修、1 月 4 日には選択研修（メンタルヘルス含む）を実施しました。また、虐待防止研修をハイブリッド形式およびアーカイブ配信により実施しました。他、採用異動時研修、階層別研修（一般職員スキルアップ、主任、課長、所長）、OJT リーダー研修、人事考課者研修などに取り組みました。また、わかりたすくセミナーをキャリアパス指定研修とし、法人全体研修として取り組みました。グループホーム世話人については、事業所ごとに内部研修という形で随時実施しました。

第 63 回大阪知的障がい者福祉大会 9 月 25 日（日）堺市、国際障害者交流センター（ビッグ・アイ）にて開催しました。参加者 303 名（本大会 148 名、本人大会 100 名、来賓、出演者、スタッフ等 55 名）を得ました。

第 61 回近畿知的障がい者福祉大会 10 月 23 日（日）奈良県にて開催されました

近畿リーダー養成研修会 3月11日(土) たかつガーデン

全国手をつなぐ育成会全国大会 11月20日(日) 福井県にて開催されました

事業

生活支援部門

- 生活介護事業(ゲーテン) 定員40名
- 生活介護事業(中) 定員20名
- 生活介護事業(ねぎぼうず) 定員20名
- 共同生活援助事業(H中央、Hあまみ、Hい～な、Hみのお、Hさくら、Hなでしこ、Hしらさぎ)
- グループホームの支援の質の向上
- 居宅介護事業(中、い～な)
- 移動支援事業(中、い～な)
- 短期入所事業(Hみのお、さくら、Hなでしこ、Hしらさぎ)
- 日中一時支援事業(地域生活支援事業/中、あまみ、い～な、さくら)
- 自立生活援助事業(Hあまみ)
- 一般相談支援事業(中央、あまみ、い～な、さくら)
- 特定相談支援事業(中央、あまみ、い～な、さくら)
- 障害児相談支援事業(中央、あまみ、い～な、さくら)
- 保育所等訪問支援事業(中央)
- 知的障がい者文化芸術・スポーツ活動等推進事業(地域生活支援事業/大阪府委託事業)
- 障害児早期療育事業(ポニー教室)(島本町委託事業)
- 自主製品のWEB通販の開始(中・ねぎぼうず・しらさぎ)

就労支援部門

- 就労支援統括センターの運営(みいーん)
- 就労移行支援事業(さくら) 定員25名
- 就労移行支援事業(しらさぎ) 定員10名
- 自立訓練(生活訓練)事業(さくら) 定員男女15名
- 自立訓練(生活訓練)事業(しらさぎ) 定員男女6名
- 就労継続支援A型事業(さくら・スワンカフェ&ベーカリー大東店) 定員10名
- 就労継続支援A型事業におけるベジハグバーガーの展開(さくら)
- 就労継続支援B型事業(中) 定員20名
- 就労継続支援B型事業(しらさぎ) 定員24名
- 就労継続支援B型事業(あまみ・ピカ☆イチ) 定員20名
- 就労継続支援B型事業(さくら) 定員10名
- 就労定着支援事業(さくら、あまみ、しらさぎ)
- 知的障害者雇用清掃事業(大阪府ITステーション、障害者社会参加促進センター等)(みいーん)

- エル・チャレンジに係る清掃事業（大阪府・大阪市委託事業）（みいーん）
- 訪問型職場適応援助者による支援事業（ジヨブコーチ）（みいーん）
- 障害者就業・生活支援センター事業（国・大阪府委託事業）（みいーん）
- 地域就労支援（コーディネーター活動推進）事業（大東市委託事業）（みいーん）
- 職場定着支援事業（大東市委託事業）（みいーん）
- 就労支援啓発セミナーの開催（みいーん）

人材支援部門

- 知的障がい者文化芸術・スポーツ活動等推進事業（大阪府委託事業）
- キャリアパス研修
- エンパワメント講座
- 新成人と還暦を祝うメッセージカードの送付
- 社内誌「つなぐちゃんベクトル」の毎月発行
- 支援専門職向けの政策ゼミナールの開催
- 人材確保策の強化（法人説明会の実施と効果的媒体の利用）

地域支援部門

- 情報紙「太陽の子」の毎月発行 3,900部 印刷
- 本人情報紙「青空新聞」の年間2回発行 3,900部 印刷（太陽の子の差込みにて発行）
- 情報誌「大阪06ヘッド」の随時発行
- ホームページの運営
- たまにブログ、しらさぎブログの提供
- 合理的配慮ひろめ隊フェイスブックの提供
- つな good ボウリング大会
- ボランティアの募集
- 知的障害に配慮した書籍や冊子の発行・あっせん・販売
- 情報・交流誌「手をつなぐ」等の購読販売
- 社会政策研究所の運営
- 生活支援機器等の展示・あっせん
- 市町村審査会等への人材派遣
- 自立支援協議会等への人材派遣
- P&A 大阪への参画
- 本人交流の場としてサロンの開設・実施（毎月2回）
- スポーツや文化事業への招待
- 企業等の社会貢献活動のコーディネート
- 全育連障害基礎年金学習会の実施

法人・団体支援部門

- 大阪知的障がい者スポーツ協会への参画
- 特定非営利活動法人堺市相談支援ネットへの参画、協力

- 大阪知的障害者雇用促進建物サービス管理事業協同組合への参画
- 一般社団法人エル・チャレンジ等への参画
- 講座や研修会への各種講師派遣
- 審議会や検討会などへの委員派遣

(大阪ふれあいキャンペーン、大阪府障がい者自立支援協議会、大阪府工賃向上委員会、大阪府地域福祉推進審議会、大阪府福祉のまちづくり審議会、第三者評価決定委員会、大阪府障がい者施策推進協議会、大阪府障がい者差別解消協議会、大阪府障がい者給付不服審査会、大阪府運営適正化委員会、全国手をつなぐ育成会連合会、大阪府社会福祉協議会、大阪府地域福祉推進財団、大阪府障害者福祉事業団、大阪府家内労働センターなど)

- 「心のバリアフリーフォーラム」の受託
- 政策フォーラム
- 政策の企画提言

主な行事

- 第 8 回全国手をつなぐ育成会連合会全国大会 福井大会** 11月20日
(うち本人大会は9月19日、10月9日リモート開催)
- 第 61 回近畿知的障がい者福祉大会 奈良大会** 10月23日
- 第 25 回近畿連リーダー養成研修会 大阪市** 3月11日
- 事業所協議会全国研修大会 新潟県** 11月5日
- 第 40 回スポーツフェスタ 2022 大阪** 10月15日16日ほか
- 第 21 回全国障害者スポーツ大会 ⇒ 中止**
- 権利擁護セミナー 石川県** 11月1日
- 全育連総会** 6月29日
- 全国代表者事務局長会議** 3月8日
- 育成会フォーラム** 3月～4月 オンラインによるリモート開催
- 令和5年新年懇親会** 1月17日弁当食による黙食とマスク懇親
- 手をつな good ボウリング大会** 6月26日
- 手をつな good ポッチャ大会** 12月17日
- 第 12 回社会政策研究所研究発表会 ⇒ 中止**
- 近畿連育成会役員会** 4月4日、6月6日、8月8日、10月3日、12月5日、2月6日
- エル・チャレンジ総会** 5月30日
- 大阪障害フォーラム(ODF)総会** 6月25日
- 障害者週間大阪行事实行委員会** 8月19日
- 障害者週間シンポジウム** 12月9日
- 大阪ふれあいキャンペーン実行委員会** 8月22日
- 大阪府社会福祉大会** 11月25日

育成会活動

- 育成会活動本部会議 毎月第2火曜日 計12回開催
- 支部代表者連絡会（わかりたすくセミナー） 毎月第3火曜日 計11回開催
- 部会活動（わかりたすくセミナー/年31回/延参加者613名⇒ただしWEB開催の参加人数は反映されていません）
 - 生活支援（年10回/延参加者252名）
 - 就労支援（年3回/延参加者51名）
 - 権利擁護（年1回/延参加者17名）
 - 社会参加（年2回/32名）
 - 活性化（年15回/261名）
- ほか 支部における研修会等の開催
- 要望活動
 - 大阪府への要望／市町村への要望支援
- 大阪府行政への審議検討参画
 - 大阪府障がい者自立支援協議会、大阪府工賃向上委員会、大阪府地域福祉推進審議会、大阪府福祉のまちづくり審議会、大阪府障がい者施策推進協議会、大阪府障がい者差別解消協議会、大阪府障がい者給付不服審査会、大阪府運営適正化委員会等
- 大阪府地域生活支援事業の受託
 - 知的障がい者文化芸術・スポーツ活動等推進事業
- 更生相談（権利擁護相談）
- 会員交流研鑽行事
 - 第63回大阪大会（堺市・国際障害者交流センター）9月25日
 - 交流運動会 ⇒ 中止
 - 手をつな good ボウリング大会（八戸ノ里スペース hit：参加者77名）6月26日
 - 手をつな good ボッチャ大会（ファインプラザ：参加者22名）12月17日
 - 政策フォーラムの実施（参加者14名）8月30日
 - 政策ゼミナールの実施（年11回）
- 他の障害者団体との交流連携
 - ODF（大阪障害フォーラム）への参画
- 全国手をつなぐ育成会連合会への参加
 - 国家要望／国等の審議会や検討会への参画／市町村育成会の活性化
- 本人活動支援
 - わかりやすい版パンフレットの作成と配布
 - IPTVやLLブックなどへの協力
- 要望活動

大阪府への要望／市町村への要望支援／全育連を通じたの国家要望

地域貢献活動

- 更生相談（権利擁護相談）
- スポーツ・文化イベントの実施
 - 手をつな good ボウリング／手をつな good ボッチャ／スポーツや文化各種招待行事のあっせん
- 本人活動支援（本人部会：大阪ともだちの会）
 - 大阪ともだちの会の支援（年 12 回：延参加 322 名）
 - 青空新聞の編集・企画と発行（年 2 回発行：1 回につき 3,900 部）
 - レクリエーション活動
 - 交流運動会 ⇒ 中止
 - 勉強会
- 研修会への講師派遣
- 市町村審査会等への委員の派遣

政策提言活動

- 大阪府行政への審議検討参画
 - 大阪府障がい者施策推進協議会 坂本理事長
 - 意思疎通支援部会 小尾常務理事
 - 障がい者文化芸術部会 坂本理事長
 - 大阪府障がい者差別解消協議会 坂本理事長
 - 大阪府障がい者自立支援協議会 小尾常務理事
 - 地域支援推進部会 小尾常務理事
 - 基盤整備促進ワーキング 谷川事務局長
 - 工賃向上委員会 北口理事
 - 虐待防止推進部会 東野理事
 - 大阪府地域福祉推進審議会 小尾常務理事
 - 大阪府福祉のまちづくり審議会 小尾常務理事
 - 計画評価検討部会 小尾常務理事
 - 大阪府障がい者給付不服審査会 小尾常務理事
 - 大阪府運営適正化委員会 谷川事務局長
 - ふれあいキャンパ-ン実行委員会 小尾常務理事
 - 大阪府高齢者障がい者住宅計画等審議会 谷川事務局長
 - 大阪府教育庁府域における支援教育力の向上に関する有識者会議 坂本理事長
 - 堺市相談支援ネット企画チーム会議 原田室長

新型コロナウイルス感染症対応

■新型コロナウイルス対策法人本部会議

令和4年4月28日より、全6回開催

検討内容

⇒法人対策指針、事業の休止判断、緊急連絡体制、物資の確保、新しい生活様式、新しい支援様式、感染者発生時対応シミュレーション、在宅支援、ワクチン接種支援、タスクフォース、労務管理（自家用車通勤、自主隔離宿所設定、コロナ特別休暇等取扱い、ワクチン接種特別休暇取扱い、職員利用者出勤ガイドライン、特別手当、陽性者支援手当）

■新型コロナウイルス法人対策指針の策定

令和4年4月28日より、全6回改訂

策定内容

⇒①症状のある者、感染が疑われる者、感染者への対応手順

②法人内事業所休業等

③要員配置と優先継続業務

④感染者等対応居住エリアの確保

⑤法人対策本部体制

⑥職員申し合わせ事項

⑦事業所申し合わせ事項

事業運営について、環境への配慮、事務に関すること

⑧感染者発生時留意事項

⑨ワクチン接種について

■新型コロナウイルス感染者対応経過

法人事業感染者発生状況

令和2年度⇒利用者8、職員4

令和3年度⇒利用者23、職員24

令和4年度⇒利用者75、職員52 計 利用者106名、職員80名

全国的に感染が広がったオミクロン株については、当法人でも感染者が増加し、支援センターい〜な、支援センターさくら、ホームズさくらなでしこ、ホームズしらさぎ、ホームズあまみ、ホームズ中央において、陽性者支援に取り組みました。

陽性者支援や、職員離脱による人員補充などの目的で、法人内横断的な人員派遣チーム【タスクフォース】を仕組み、各所へ必要に応じて派遣しました。

■関連助成金など

障害福祉サービス事業所・施設における感染防止対策支援事業	215,000円
両立支援等助成金新型コロナウイルス感染症小学校等休業対応助成金	814,921円
大阪府障がい福祉サービス事業者燃料費高騰対策支援金	193,800円
新型コロナウイルス感染症に係る障がい福祉サービス等事業者に対するサービス継続	

支援事業補助金（大阪府）	2,851,000 円
障害福祉サービス等事業者に対するサービス継続支援事業補助金（堺市）	832,000 円
障害福祉サービス等事業者に対するサービス継続支援事業補助金（大阪市）	291,000 円
大阪府社会福祉施設等物価高騰対策一時支援金（大阪府）	3,019,200 円
堺市社会福祉施設等物価高騰対策一時支援金	2,750,000 円
四條畷市社会福祉施設等物価高騰対策一時支援金	400,000 円
箕面市社会福祉施設等物価高騰対策一時支援金	1,066,000 円
堺市障害者施設に係る施設内療養支援金（4 回分）	1,590,000 円
合計	14,022,921 円

社会政策研究所

知的障害を主軸に社会政策全般についての調査研究等を行い、その知見を広く社会に提供することで、だれもが住みよい社会づくりの一助に帰することを目的として、また、これとあわせて、組織が成立して 50 周年を迎えた当法人の記念事業として、社会的貢献の社会政策研究所を運営しています。

所在地 大阪市東成区中道 1-3-59 大阪府立福祉情報コミュニケーションセンター 3F

職員 所長 1 名（常務理事兼務） 客員研究員 8 名（令和 5 年 3 月 31 日現在）

事業 令和 4 年度の事業は以下のとおりです。

- (社福)大阪手をつなぐ育成会の社内誌「つなぐちゃんベクトル」の編集発行
毎月定期号を通算 1 2 号（160～171 号）を発行
- (社福)大阪手をつなぐ育成会の情報誌「大阪 O 6 ヘッド」毎週火曜日発行
01 オピニオン 02 オリジナル 03 オープン 04 おおきに 05 おもしろい 06 大阪
- わかりたすく工房 支部代表者連絡会や各わかりたすくセミナー等への情報提供
- 政策フォーラムの開催 6 月 30 日 問題行動のある知的障害者を支援するトラウマ理解 講師は本多隆司さん（種智院大学） 14 名参加
- 政策ゼミナール 「手をつなぐ」を素材に情報交換
 - 4 月 26 日 協働で踏み出す
 - 5 月 24 日 知的障害って何
 - 6 月 28 日 終活
 - 7 月 26 日 生涯学習
 - 8 月 30 日 夫・父
 - 9 月 26 日 就労支援 A 型
 - 10 月 25 日 「手をつなぐ」800 号
 - 11 月 22 日 グループホーム
 - 12 月 27 日 メンタルヘルス【延期】
 - 1 月 31 日 成人
 - 2 月 28 日 制度の改正
 - 3 月 28 日 きょうだいの思い
- 研究報告会 令和 5 年 1 月（報告事項なく中止）
- 講師等の派遣 依頼に応じて講師等の派遣を実施
大阪府の障害者ピアサポーター養成検討会と養成研修に左古研究員らを派遣
IPTV アクセシビリティコンソーシアム委員は、6 月に全育連の西副会長（熊本県）に引き継ぎました
LLブックセミナー 2 月 26 日 大阪市立中央図書館（藤澤研究員）参加者約 100 名
- その他 たまにブログ など

事務局中央分室（中央支援センター）

I 事業一覧

- 特定相談支援事業
- 一般相談支援事業（地域移行・地域定着）
- 障害児相談支援事業
- 保育所等訪問支援事業
- ポニーの学校（島本町委託事業）
- 本人活動支援（大阪ともだちの会、近畿みんなであつまる会、金曜サロン）
- 更生相談（広域専門相談）

II 概要

「事務局中央分室」は支援センター中内に拠点を置き、大阪市より特定相談・一般相談・障害児相談支援事業の指定を受け、大阪市東成区において、計画相談支援・地域移行支援・地域定着支援・障害児相談支援事業を展開した。主に大阪市域をはじめ一部他市のケースも対応した。さらに、東成区自立支援協議会へ積極的に参加し、東成区基幹相談支援センター東成育成園と連携して、地域の課題に対応した。また、事務局の分室として以下の事業についても実施した。

1) 保育所等訪問支援事業（大阪市指定事業）

2) ポニーの学校（島本町委託事業）

※スタッフとは雇用契約を結び、スタッフの休みなどに備え、緊急時に対応できる登録スタッフを確保する。

3) 更生相談（広域専門相談）

法人事務局の分室として「育成会活動」の拠点も担うこととし、わかりやすくセミナー、活動本部会議、各種部会などの運営に携わった。その他本人活動支援（大阪ともだちの会）、青空新聞作成、事務局本部と協働で金曜サロンの実施を行い、育成会大会運営、全日本手をつなぐ育成会連合会活動への参画も行った。さらに、人材確保の一環として、社会福祉士相談援助実習の受け入れも行った。（大阪国際福祉専門学校から2名受け入れ）

III 事業概要

・相談支援、ポニーの学校（島本町障害児早期療育事業）、保育所等訪問相談支援利用者の状況

種類／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
計画相談総契約者数	72	75	74	73	73	73	71	71	71	71	71	71
(内障がい児数)	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32
計画相談請求件数 (者)	20	22	15	21	12	13	16	14	17	13	22	18
計画相談請求件数 (児)	13	11	16	8	18	9	11	15	12	16	10	12
地域定着支援 態勢確保(契約数)	9	9	9	10	10	10	10	10	10	10	10	9
緊急支援(回)	8	5	8	9	3	5	17	9	10	8	11	2
地域移行	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
基本相談	8	3	1	5	3	0	0	0	0	3	3	5

ポニーの学校

事業名	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
ポニー(実人員)	／	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5

*10月については、インターバル3回、療育1回

保育所等訪問

事業名	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
保育所等訪問支援	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0

・本人活動(ともだちの会)

- 4月24日(日) 総会 阿倍野市民学習センター 参加 24人
- 5月22日(日) しゃべり場 阿倍野市民学習センター 参加 30人
- 6月26日(日) 学習会「防災について」阿倍野市民学習センター 参加 18人
- 7月27日(日) 学習会「はたらくについて」阿倍野市民学習センター 参加 28人
- 8月28日(日) アート活動 阿倍野市民学習センター 参加 23人
- 9月25日(日) (大阪大会 本人大会)
- 10月24日(日) 日帰り旅行 天王寺周辺 参加 32人
- 11月22日(日) 外出 万博記念公園 参加 25人
- 12月26日(日) 今年の振り返り 来年の抱負 阿倍野市民学習センター 参加 25人
- 1月22日(日) 外出 大阪くらしの今昔館 参加 29人
- 2月12日(日) 堺さくら会との交流会 阿倍野市民学習センター 参加 31人
- 3月26日(日) 映画上映会 中央支援センター 参加 27人

- ・大阪大会 本人大会実行委員会 4月24日(日) 阿倍野市民学習センター
- 5月22日(日) 支援センター中

6月26日(日) 支援センター中

7月27日(日) 支援センター中

8月28日(日) 支援センター中

大阪大会 本人大会 参加者 98名 / フェスタ協力団体及び個人 2団体 4名

ともだちの会支援者体制 中央分室職員 3名 事務局 2名 エリア支援者 登録 8名 ボランティア 1名

全育連全国大会 Web 本人大会 9月19日 台風接近のため参加中止

10月9日 中央支援センター(参加 4名 ボラ 1名)

全育連本人活動支援委員会 12月19日(月) 原田

2月17日(金) 原田

・更生相談

対応ケース数 4月 10件 権利擁護関係(虐待含む) 4件、触法関係 9件 重複あり
5月 11件 権利擁護関係(虐待含む) 4件、触法関係 10件 重複あり
6月 13件 権利擁護関係(虐待含む) 5件、触法関係 12件 重複あり
7月 10件 権利擁護関係(虐待含む) 3件、触法関係 9件 重複あり
8月 11件 権利擁護関係(虐待含む) 4件、触法関係 9件 重複あり
9月 10件 権利擁護関係(虐待含む) 5件、触法関係 8件 重複あり
10月 9件 権利擁護関係(虐待含む) 4件、触法関係 7件 重複あり
11月 10件 権利擁護関係(虐待含む) 4件、触法関係 9件 重複あり
12月 10件 権利擁護関係(虐待含む) 4件、触法関係 9件 重複あり
1月 10件 権利擁護関係(虐待含む) 5件、触法関係 9件 重複あり
2月 10件 権利擁護関係(虐待含む) 5件、触法関係 9件 重複あり
3月 10件 権利擁護関係(虐待含む) 5件、触法関係 9件 重複あり
実ケース数 16件

・わかりたすくセミナー

4月5日 生活 障がいのある人の住居の提案(キャリアパス)

講師 ディーズパレット株式会社アンドプロジェクト事業部 菅 大介 氏

4月5日 活性化 大阪府への要望項目の作成

4月19日 生活 重度訪問支援と地域生活(キャリアパス)

講師 いばらき自立支援センター「ぽぽんがぽん」サービス提供責任者
水上 有加 氏

5月17日 生活 個別避難計画とは(キャリアパス)

講師 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

- 主任研究員 正井 佐知 氏
- 6月7日 活性化 大阪府への要望項目の解説（キャリアパス）
- 6月15日 活性化 大阪府への要望項目の解説（キャリアパス）
- 7月5日 就労 共に働くこと（キャリアパス）
講師 特定非営利法人 出発なかまの会 自立生活センター・どんどん
メンバー 原田 小夜子氏 沼田 吉史氏 他支援者 様
- 7月5日 活性化 大阪府への要望項目の解説（キャリアパス）
- 7月19日 就労 働くことからのリタイヤ（キャリアパス）
講師 支援センターあまみ、ホームズあまみ
課長 的場 賢治 氏
課長 神谷 学 氏
主任 木本 良 氏
- 8月2日 生活 役に立つ地域生活支援拠点を整備しよう！（キャリアパス）
権利擁護 拠点整備にも不可欠な基幹相談支援センターとは（キャリアパス）
講師 全国手をつなぐ育成会連合会
常務理事兼事務局長 又村 あおい氏
- 8月23日 生活 一人暮らしを考える（キャリアパス）
講師 中央支援センター利用者
中村 宏一 氏、阪口 武寿 氏
他 支援者 中央支援センター 原田・銭谷
- 9月6日 生活 強度行動障害への対応（キャリアパス）
講師 社会福祉法人 創思苑 クリエイティブハウス「パンジー」
管理者 北田 徹 氏
- 9月6日 生活 障害年金と各種手当（キャリアパス）（公開）
講師 公益財団法人 兵庫県手をつなぐ育成会
理事長 井上 三枝子 氏
- 9月20日 活性化 大阪府の要望回答への解釈（キャリアパス）
- 10月4日 活性化 大阪府の要望回答への解釈（キャリアパス）
- 10月18日 活性化 大阪府との懇談
- 11月1日 活性化 大阪府教育庁との懇談 大阪府との懇談
- 11月15日 社会参加 知的障がいのある人のバリアフリー（キャリアパス）（公開）
講師 株式会社 おめめどう 代表取締役 奥平 綾子 氏
- 12月9日 就労 社会参加 障害者週間シンポ（キャリアパス）
- 12月20日 生活 暮らしやすい地域づくり（キャリアパス）
講師 社会福祉法人 そうそうの杜 利用者と職員の皆さん
- 1月24日 活性化 大阪府への要望作成、年度振り返り Part1、Part2
- 2月7日 生活 安全で便利な SNS 利用法（キャリアパス）

- 講師 活動部活動支援室・中央支援センター
室長・所長 原田 和明 氏
- 2月7日 就労 地域協働と就労支援（キャリアパス）
講師 特定非営利活動法人 チャレンジドネット・いずみ
理事長 森 真規氏
- 2月21日 生活 障害が重い人のGH利用（キャリアパス）
講師 社会福祉法人 あぜくら福祉会
統括管理者 吉兼 克彦 氏
上坂部なかまの家リーダー 西川 和也氏
- 3月7日 活性化 令和5年度要望作成 Part1、Part2
- 3月15日 社会参加 今年度のともだちの会の活動（キャリアパス）
講師 ともだちの会メンバー
大村 信孝 氏
前川 絢子 氏
支援者 中央支援センター 原田 和明 銭谷 亜紀

支援センター中

I 事業概要

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染防止として、大阪市からの予防策をもとに、作業室のレイアウトの見直しや換気の徹底、利用者にはマスク着用支援を行った。また、利用者が楽しみにしている行事については、利用者の安全を第一に、大阪府の感染状況を確認しながら感染対策を行い、職員間で工夫を行い予定していた行事や施設外プログラムを実施した。

家族から新型コロナワクチン接種支援の依頼があり、希望する利用者については、集団接種会場や近隣医療機関を利用し接種支援を行った。しかし、新型コロナウイルス第7波・第8波は感染力が強く、多数の利用者及び職員が感染したが、集団感染に至らず、事業を休止することはなかった。

就労継続支援B型事業については、目的を就労から、働く・楽しむ・学ぶに変更し2年目を迎え創作活動以外に学習会を定期的実施し、これまで気付かなかった利用者の新たな側面を確認し、支援に活かすことができた。生活介護事業については、利用者の安全な活動スペースを考えた上で、個を意識した取り組みを実施し、作業、余暇、行事などなるべく選択できる機会を設け、利用者の満足につなげた。

魅力のある事業所・透明性のある地域の中の事業所を目指す目的で、地域からの招待行事には積極的に参加し、また、今年初めての取組みとして利用者が作成した作品の展示会を区民センターで実施したり、日頃の活動や行事での様子等を定期的にホームページに掲載し、事業所の取り組みを多数の方に発信を行った。昨年度に引き続き、利用者・ご家族に向け満足度調査を実施しアンケートの結果については、職員間で共有した上で次年度のプログラムの見直しや支援方法等について話し合いを行い改善に向けて取り組んだ。結果については家族会で報告し、ホームページにも掲載し、選ばれる事業所づくりにも取り組んだ。

II 事業内容

○支援センター中	就労継続支援（B型）事業	定員 20名
	生活介護事業	定員 20名
	日中一時支援事業（包括型）	（大阪市・八尾市）
○ホームズ中央	共同生活援助事業	定員 19名
○ヘルパーステーションなか	居宅介護事業、移動支援事業	

III 課題への取り組み（令和4年度重点項目の取り組み）

就労継続支援B型 （定員20名）

利用者の意思及び人格を尊重し、就労に必要な知識、能力が向上するための個別支援、生産活動（委託加工、自主製品作成、販売訓練）に加え、利用者から意見を取り入れ、余暇活動（創作活動）、体力維持プログラム（100歳体操等）を固定化し、また、利用者が常に選択できる取り組みを目指した。作業支援については、利用者の希望する作業を確認し、取り組むことで意識向上につなげ、また、1日の出来高をお金の絵で伝え、やる気につなげた。学習会については感染対策として、区保健所の協力を得て手洗い講習を行い、利用者の衛生意識向上に役立った。

今年度初めて、写生会を大阪城公園にて実施し利用者が個性ある絵を描き上げ、作品として区民センターで展示した。行事を希望しない利用者については、別の活動を用意し利用者の満足につなげた。長年課題となっているさをり織りの織り手不足解消にむけ、希望する利用者に対し、さをり織体験を実施し織りあがった生地を縫製した上で、取り組んだ利用者にお渡しすることで、さをりの魅力にも触れる機会を提供した。

さをり工房「なかなか」については、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大によりバザー販売が減少する中、支援の一環としてわかりやすくセミナーや東成区役所など定期的に販売する機会を設け、接客を通して人との関わりを高める取り組みを行った。併せて、さをり商品の魅力を発信する機会にもなった。それにより平均工賃については、昨年度より増額をして利用者に支給することができた。

生活介護（定員 20 名）

昨年度に引き続き、感染防止を行いながら生産活動（委託加工）のほか、塗り絵やビーズアクセサリーの作成等、個々の利用者が希望する取り組みを、コミュニケーションツール等を用いて選択してもらい実施した。また、午後のプログラムとしての、リズム体操、エイサー（沖縄諸島全域に伝わる盆踊り）など体を動かす取り組みは、場所を変えて東成区民センターを利用し、講師を招いて取り組む機会を提供した。新たに音楽療法プログラムを取り入れ、エレクトーンの音に合わせて手作り楽器を使用し、楽しむ機会を設けた。

利用者が楽しみにしている行事については、新型コロナウイルス感染状況を確認しながら、日程の変更及び少人数での活動に切り変えた上、感染対策を行いながら予定した行事を実施した。

余暇活動の一環である季節に応じた行事については職員間で知恵を出し合い、感染防止対策を行いながら、通年どおり夏祭り、ハロウィーン、クリスマス会等を実施し満足してもらえるような時間を提供した。

IV 年間行事、日課など

1. 日課

午 前		午 後	
登 所		1 : 0 0	作業・活動再開

9 : 3 0	朝礼・ラジオ体操	2 : 0 0	途中休憩（コーヒータイム）
	終了後 作業、活動開始	3 : 2 0	作業、活動終了 清掃・終礼
1 2 : 0 0	昼食・休憩	4 : 0 0	降所

2. 年間行事

日時	行事名	場所	事業名
令和4年4月12日	花見	大阪造幣局	就B・生活
令和4年5月18日他	グループ活動	通天閣・コリアタウン	生活
令和4年5月20日	写生会	大阪城公園	就B
令和4年7月16日	夏祭り	支援センター中	生活・就B
令和4年9月18日	野球観戦	京セラドーム	就B
令和4年9月25日	大阪知的障がい者福祉大会	国際障害者交流センター 「ビッグ・アイ」	生活・就B
令和4年10月7日 から11月18日	社会見学	アサヒビール工場 ・ニフレル・太陽の塔	就B
令和4年10月15日	スポーツフェスタ	長居第二陸上競技場	生活・就B
令和4年10月31日	ハロウィーンパーティー	支援センター中	生活
令和4年11月5日	東成区ふれあい祭り	東成区民センター	生活・就B
令和4年12月9日	日帰り旅行	京都けぶりかわ温泉・伊丹空 港	就B
令和4年12月12日	日産労連クリスマスチャリティー	ビック・アイ	就B・生活
令和4年12月17日	クリスマスパーティー	東成区民センター	生活・就B
令和5年1月4日	新年会・初詣	支援センター中・御幸森天神 社	生活・就B
令和5年1月13日・27日	日帰り旅行	吉本新喜劇他	生活

令和5年2月3日	避難訓練（2回目）	支援センター中	就B・生活
令和5年3月19日	学習会（マスク会食）	支援センター中・天山閣	生活介護
令和5年3月29日	ごくろうさん会	支援センター中	就B
令和4年10月から 令和5年3月	健康診断	大阪市リハビリテーション センター他	就B・生活
令和4年5月16日から 7月23日	支援センター中展	東成区民センター	就B・生活
不定期	歩行訓練	大阪城公園・白鷺公園	生活
不定期	スワンランチ	スワンカフェ&ベーカリー 大東店	生活

その他

家族会	毎月1回（新型コロナウイルス感染防止の為 4月・6月・9月・10月・11月・2月・3月のみ開催）
介護等体験（教育）	令和4年度 前期6名・後期5名
土曜開所	概ね月1回実施
介護実習（福祉）	2名
職場体験・インターンシップ	2名
選択弁当	月1回実施
さをり販売	大阪ガス・東成区民センター（月2回）・支部連販売他
除草作業	令和4年11月 大阪府営住宅除草作業（就Bのみ）
学習会	9月・3月に実施 内容 手洗い講習（就Bのみ）

V 事業概況

1. 利用者の状況

令和5年3月31日現在

利用者／月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
在籍者		42	42	43	43	44	44	44	44	43	43	43	44
当月入所者		0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	1
当月退所者		0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0
開所日数		21	20	22	21	22	21	21	22	21	20	20	23
就労継続B型	男性	12	12	12	12	13	13	13	13	13	13	13	13
	女性	6	6	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
	計	18	18	19	19	20	20	20	20	20	20	20	20
	延利用者	334	319	370	328	350	348	352	362	339	334	339	395
	利用率	66%	66%	70%	65%	66%	69%	69%	82%	80%	83%	84%	85%
生活介護	男性	17	17	17	17	17	17	17	17	16	15	15	16
	女性	7	7	7	7	7	7	7	7	7	8	8	8
	計	24	24	24	24	24	24	24	24	23	23	23	24
	延利用者	367	349	402	347	366	341	357	347	345	314	314	371
	利用率	109	109	114	103	103	101	106	78	82	78	78	80%
日中一時	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※利用率（％）：当月の延べ人数÷定員*開所日数

2. その他利用者情報

（障害支援区分と援護市の状況）

令和5年3月31日現在（人）

事業名		就労継続B型 現員 20名（定員 20名）	生活介護 現員 24名（定員 20名）
障害支援区分	区分6	0	7
	区分5	3	7
	区分4	9	9
	区分3	4	1
	区分2	2	0
	区分1	0	0
	区分なし	2	0
援護市別利用者数		大阪市 15名 八尾市 4名 東大阪市 1名	大阪市 21名 八尾市 3名

3. 年齢の状況

(人)

事業名		就労継続B型	生活介護
19歳以下	男	0	1
	女	0	0
20歳～29歳	男	2	5
	女	0	0
30歳～39歳	男	3	2
	女	1	0
40歳～49歳	男	2	4
	女	1	3
50歳～59歳	男	3	3
	女	2	3
60歳～69歳	男	2	0
	女	2	1
70歳以上	男	1	1
	女	1	1
平均	男	46.5歳	38.8歳
	女	55.1歳	55.0歳

4. 工賃支給実績（就労継続支援B型）

	工賃支払い対象者数		支払工賃総額	
4月	18	人	113,000	円
5月	18	人	102,000	円
6月	18	人	96,600	円
7月	19	人	116,750	円
8月	19	人	98,050	円
9月	20	人	102,450	円

10月	20	人	317,760	円
11月	20	人	101,700	円
12月	19	人	106,050	円
1月	19	人	95,250	円
2月	20	人	93,900	円
3月	18	人	554,050	円
合計	229	人	1,897,560	円

月平均工賃	
8,386.3	円

ホームズ中央

I 事業概要

ホームズ中央は、今年度も地域で自分らしい生活を送れることを希望している19名の利用者の支援、援助を行なった。また、利用者・家族の生活ステージを把握して、地域生活の展開について検討を行なった。

新型コロナウイルス感染拡大により、新しい生活様式に倣いマスク着用・手洗いうがい・換気の声かけ支援・援助を行った。感染防止策として、国・府の指導に基づいた対策を行った上、健康観察の徹底、居室での食事の提供を実施し、なるべく集まらない取り組みに切り替えた。大阪府下の感染状況に合わせて、利用者にわかるようにお知らせを配布し、注意喚起を行い感染防止に努めた。新型コロナウイルスワクチン接種を希望する利用者には、接種支援を行った。しかし、令和4年度7名が感染、各利用者及びご家族、保健所の協力により、医療機関や宿泊施設での隔離静養を利用せず、ホーム内静養で完治に至った。昨今の物価上昇により、すべての食材が値上がりする中、利用者が楽しみにしている誕生日会は、感染状況を確認しながら、感染対策ができていない飲食店の利用及びテイクアウト（宅配）を活用して質を下げないような工夫を行い開催した。

II 課題への取り組み（令和4年度重点項目の取り組み）

共同生活援助

利用者の身体及び精神の状況に応じた支援計画を基本にすえ、主体的で豊かな生活を送ることができるように取り組んだ。具体的には新型コロナウイルス感染症対策として入浴、排せつ及び食事等の援助、その他の日常生活上の相談を行った。また、訪問看護ステーションや居宅介護事業所との連携を強化し、利用者の健康面や通院等の支援についても状況に合わせて適切に行った。

利用者が少しでも過ごしやすいグループホームにするため、ホーム家族会を実施し、環境面及び支援内容について意見交換を行い改善に努めた。また、物価高騰については、事前に利用者及びご家族に物価高騰に関わる案内を配布し、利用者・世話人に節約の協力を求めた。しかし、想像以上の高騰であったこともあり、ホームでのサービスの質（食事・入浴等）の低下を避けるため、一部のホームで利用料の追加徴収を行う結果となった。

高齢利用者が少しでも当ホームでの生活が継続できるよう、障害福祉・介護福祉サービス事業所と連携を取り、環境・支援の両方から取り組んだ。しかし、能力・体力の低下のスピードは速く、本人・家族・関係機関等と今後のステージ移行について話し合いを行った。

1. 利用者の状況（毎月末日）定員 19 名

令和 5 年 3 月 31 日現在

利用者／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
在籍者	19	19	19	19	19	19	19	19	19	18	18	18	
当月入所者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
当月退所者	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	
事業名①	男性	13	13	13	13	13	13	13	13	12	12	12	
	女性	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	
	計	19	19	19	19	19	19	19	19	18	18	18	
	のべ利用者数	526	524	529	522	515	503	528	528	505	479	461	515
	利用率	87%	84%	85%	84%	83%	83%	85%	88%	83%	77%	86%	87%

※利用率（％）：当月の延べ人数÷定員*開所日数

2. その他利用者情報

（障害支援区分と援護市の状況）

令和 5 年 3 月 31 日現在（人）

年齢	性別	共同生活援助
20 歳～29 歳	男	1
	女	0

30 歳～39 歳	男	0
	女	1
40 歳～49 歳	男	6
	女	1
50 歳～59 歳	男	4
	女	1
60 歳～69 歳	男	1
	女	1
70 歳以上	男	1
	女	1
平均	男	49.0 歳
	女	54.0 歳

(障害支援区分と援護市の状況)

(人)

事業名		共同生活援助
障害支援区分	区分 6	0
	区分 5	4
	区分 4	8
	区分 3	4
	区分 2	2
	区分 1	0
	平均区分	3.8
援護市別利用者数		大阪市 7名 八尾市 8名 門真市 1名 東大阪市 1名 高槻市 1名

ヘルパーステーションなか

I 事業概要

ヘルパーステーションなかは、一人では外出が難しい障害者が、社会生活の上で必要不可欠な外出や余暇活動、社会参加のための外出をする際に、ヘルパーを派遣し外出時に必要となる移動の介助及び交通機関の利用支援、助言を行った。また、一人で医療機関に受診できない障害者に対し、ヘルパーを派遣し病院に付き添い、通院時に必要となる移動の介助や医師からの指示や内容を利用者にわかりやすく説明し、医師と利用者の橋

渡しを行った。

移動支援実績（延べ件数）

（人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人員	3	6	7	4	1	3	6	4	3	4	2	3	46
延支援件数	8	8	9	5	1	3	7	5	7	6	3	4	66

居宅介護実績（延べ件数）

（人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人員	7	7	5	7	8	8	7	6	8	8	8	10	89
延支援件数	9	9	9	8	10	13	11	10	12	10	10	12	123

支援センターあまみ・ホームズあまみ

I 事業内容

○就労支援	就労継続支援 B 型事業 就労定着支援事業 日中一時支援事業 大阪知的障害者雇用促進建物サービス事業協同組合(エル・チャレンジ)事業 松原市総合福祉会館清掃事業 訪問型職場適応援助者(ジョブコーチ)	定員 20 名
○生活支援	共同生活援助事業(グループホーム) 特定相談支援事業 障害児相談支援事業 地域共生社会をめざした権利擁護活動(地域貢献活動)	定員 47 名
○事務	総務・庶務・労務・会計	

【概要】

支援センターあまみ・ホームズあまみは、拠点の垣根を超えた一体的な運営を基本とし、就労支援・生活支援、それぞれの業務特性を活かしながら、あまみエリアでの機能連携を日常的に進めた。特に、人材育成において就労・生活どちらの支援アプローチも必要となる複合的な課題を抱える利用者に対し横断的な支援チームを作り支援の質の向上に取り組んだ。

経営面では、就労系事業で経営改善 2 か年計画の 2 年目となり、計画の成果が求められる 1 年となった。支援センターあまみ・ピカイチは利用者 3 名増が、そのまま訓練等給付の増収につながり、開所日数・稼働率とも計画した数字には、わずかにとどかなかったが、事業を継続できる結果となった。就労実績としても、11 月に 1 名が就職した。

生活支援では、11 か所のグループホーム利用者に対して、自分自身で選択、決定し、豊かな生活を実現するために支援を実施した。新型コロナ対応では、拠点 1 階にてゾーニングを行い陽性者隔離のための居室を 3 室用意した。しかし、第 7 波において、日中活動先である支援センターあまみ・ピカイチも含めてクラスターが発生し、居室が不足する事態となった。グループホームでの感染症対応の困難さを痛感した。世話人定例会、研修も計画通りに進めることが難しい状況もあったが、世話人との個別のヒアリング(年 1 回)を実施し、利用者の視点に立った暮らしを見つめ直し、サービス管理責任者、バックアップ職員・世話人・生活支援員が協働して取り組む体制づくりを行った。人材育成では、世話人の採用時のオリエンテーションを拠点ホームにて、職員から行うことにした。入職時における説明内容の担保を図り、安心して働いてもらえる環境を整えた。また、拠点を中

心に防災に取り組み、グループホームでの生活が安全で、安心なものとなるよう感染症及び自然災害に対応したBCP（事業継続計画）を作成中である。

相談支援は、法人全体の相談支援事業体制のスリム化に伴い整理を行った。丁寧な引継ぎが必要なケースがあり、6月廃止予定どおりとはいかなかったが、9月末には事業を廃止することができた。

新しく取り組む事業として、地域で一人暮らしをしている、または同居家族の支援を受けることが難しい障害当事者の家に定期的な訪問を行う「自立生活援助事業」の実施にむけ準備し、令和5年3月1日付で指定を受けた。

II 令和4年度重点課題

■就労支援

- 就労系事業の経営改善
- 支援の質(利用者の満足度)

■生活支援1～グループホーム～

- 利用者の高齢化に対する支援
- 成年後見制度の活用
- 人材確保・人材育成
- 感染症、自然災害に備えた危機管理対策の強化

■生活支援2～地域共生社会をめざした権利擁護活動(地域貢献活動)～

- 地域生活者の社会的孤立の防止と複合的支援
- 計画相談支援事業の縮小・整理と、自立生活援助事業の準備調整活動

■事務

- 拠点間の物理的距離の解消
- 経費削減

III 課題への取り組み

1. 就労支援

【経営改善】

- ・経営改善2か年計画の2年目が終了。収入は600万円増加し黒字に転換ができた。次年度も新しい加算取得により、さらに改善が見込める状況になった。
- ・稼働率は目標年間平均110%のところ、108%という結果。年度内に新規利用者が3名あった。
- ・開所日は年間目標267日のところ、266日であった。新型コロナにより、8月に2日間休所を余儀なくされたため、下半期に休日開所を増やすなど実施したが、計画日数に1日達しなかった。
- ・平均工賃月額目標1万円以上のところ、11,396円であった。松原市総合福祉会館の清掃、松原市公用車の洗車、エルチャレンジ短期清掃を活用し、昨年度比

でおよそ600円のマイナスで、利用者数が増加したものの、ほぼ変わらない結果となった。

- ・就職者は今年度1名を送り出した。また昨年2月に就職した1名が、ジョブコーチ支援の活用もあり、今年度内に6か月定着をむかえた。これにより、次年度の就労移行支援体制加算の取得が可能となった。
- ・賃貸借契約について、賃料の交渉を行い、次年度も引き続き減額できることとなった。また、時間外勤務の削減、慣例となっていた広告費の見直し、補助金の活用など、支出を100万円削減することができた。

【支援の質向上】

- ・小集団プログラムにより個別のニーズに対応を図ってきた（漢字検定、グループワーク、パソコン教室、プラモ部、ガーデニング部、工作、その他）。また、コロナ禍でも楽しめる余暇活動ということで、バーチャル沖縄旅行や、ハロウィンパーティーなど、室内で楽しめるイベントを工夫した。中断していた外出等のイベントについても、バスツアーがみかん狩り、いちご狩りなど、情勢を見ながら徐々に再開することができた。
- ・ジョブコーチを1名登録し、ピカイチからの就職者に限らず、職業センターの支援も引き受けるなど活動した。
- ・今年度は、生活面への支援を強化した1年でもあった。ガンの治療、糖尿病、精神状態の悪化、食事拒否、服装や清潔保持、親の加齢など。それぞれ個別の状況に寄り添い、家族、医療機関、生活支援機関等と連携し、家庭訪問、通院同行など事業所内の支援にとらわれず、ニーズに応じた支援を展開した。
- ・新規利用者は、4月から3名が利用開始された。実習生は例年より少なく、地域の支援学校から2名であった。関係を深めるため自立訓練の事業所へ、学習プログラムの講師として職員を派遣した。

2. ホームズあまみ（生活支援）

- ・共同生活援助は、年度当初47名の定員に対し46名の利用状況であった。男性1名の空きがあり、体験入居も行ったが入居には繋がらなかった。
- ・あまみでは、25歳から73歳までの利用者が生活しており、平均年齢は男性が51歳、女性が43.8歳となっている。46名の利用者のうち半数以上が一般企業で働いており、就労系などの障害福祉サービス事業所に通所されている方は全体の40%である。令和4年度は、年度末時点でなお求職状態にある方が3名である。

【利用者の高齢化に対する支援】

- ・年間の医療機関への通院総件数は537件であった。昨年度と比べて通院件数が約40件多くなった。単独で受診ができているのは11%であった。83%はホームズの職員が通院同行を行った。今年度は全利用者への健康診断に取り組んだ結果から、生活習慣病の予防が必要な利用者が確認でき、医療機関や訪問看護と連携しながら健康観察に努めている。受診調整や服薬確認、医療情報の支援者間の共有など課題も明らか

になってきた。

- ・医療連携会議を年2回開催。日々の連携については、所長、課長、主任、訪問看護師との医療連携LINEにより情報の共有を行った。個別対応が必要な利用者で、糖尿病の教育入院から退院するにあたりケース会議を実施し、受け入れ時の体制など助言をいただいた。

【成年後見制度の活用】

- ・成年後見新規利用者は0件だが、申請中が1件あり利用を進めているところである。検討中の方が2名おられ、ご本人の権利擁護の視点を大事に取り組んでいる。

【人材確保・人材育成】

- ・ジョブギアやポスティングシステムを活用した求人活動、シルバー人材センターとの連携により、朝夕の世話人については一定充足することはできた。(採用4名)夜間支援員が不足しており、夜間支援体制の充実強化が計画どおりに進まなかった。
- ・世話人研修の開催は出来なかったが、定例会でのプチ研修の実施、新しい世話人には入職前に世話人業務を拠点ホームで職員からオリエンテーションを実施後、担当するホームで先輩世話人から業務を伝えてもらった。

【感染症、自然災害に備えた危機管理対策の強化】

- ・新型コロナウイルス感染症の罹患者を、ホームズ1階で、ゾーニング隔離対応を行った。重症者リスクの高い利用者は、藤井寺保健所の調整で入院対応ができ、通常の期間で回復しホームに戻ってくることができた。保健所、病院、訪問看護とも連携し、情報収集に努め、利用者や世話人へ分かりやすい情報を周知した。
- ・感染症、自然災害に対応したBCP(業務継続計画)を作成段階で、完成までは至らなかった。避難訓練を3回実施し、2回は地震・火災想定、1回は水害を想定した避難確保計画に基づく訓練を実施した。

【ネットワークへの参加】

- ・連絡会等への参加は、新型コロナの影響により計画通りとはいかなかった。

3. 相談支援

【相談支援の縮小整理】

- ・丁寧な引継ぎが必要なケースがあり、計画より遅れたが、9月末で事業を廃止した。

【自立生活援助の準備】

新規事業の立ち上げにあたり、以前から関係の深い利用者を最初の利用者候補として準備を進めた。計画より遅れたが、3月1日付で事業指定を受け「自立生活援助あまみ」を立ち上げた。

IV その他プログラムや、事業の特筆すべき事項など

一体感のある運営のため、あまみエリア会議、あまみ連絡会、あまみ支援会議、あまみ会計会議、職員会議を月1回開催した。各種会議において、電子会議システムを活用した。

V 年間行事、日課など

1. 日課（支援センターあまみ・ピカイチ）

午 前		午 後	
9:00～9:30	出勤 着替え・準備	13:00～14:00	午後プログラム①
9:30～9:45	ラジオ体操 朝礼	14:00～14:15	休憩
9:45～10:45	午前プログラム①	14:15～15:15	午後プログラム②
10:45～11:00	休憩	15:15～15:30	片付け・終礼
11:00～12:00	午前プログラム②	15:30～16:00	清掃・退勤
12:00～13:00	昼食・休憩		

2. 年間行事

月	年間行事
4月	9日（土）ピカイチピクニック 30日（土）バーチャル沖縄旅行
5月	7日（土）ピカイチピクニック 21日（土）大阪府障がい者スポーツ大会
6月	26日（日）手をつな good ボウリング大会
7月	2日（土）漢字検定 3日（日）エルチャレ甲子園 10日（日）日帰りバスツアー
8月	11日（木）お盆カレーエキスポ 27日（土）ピカイチ開所日（屋内で余暇活動）
9月	25日（日）大阪大会（堺市）
10月	8日（土）歯科検診 15日（土）スポーツフェスタ 29日（土）ハロウィンパーティー
11月	5日（土）みかん狩り 12日（土）まつばらマルシェ 23日（水）ふれあい交流会
12月	4日（日）日帰りバスツアー 10日（土）ピカイチクリスマス会 17日（土）つな good ボッチャ大会

1月	7日(土) エルチャレ新春ボウリング大会 9日(月) ピカイチ新年会 21日(土) 新春カラオケ大会
2月	18日(土) 漢字検定 23日(木) いちご狩り
3月	11日(土) カラオケ大会 26日(日) 日帰りバスツアー

VI 事業概況

1. 支援センターあまみピカイチ

①利用者の状況

◎就労継続支援B型

(人)

利用者/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
在籍者	31	31	31	31	31	31	31	30	30	30	30	30
当月入所者	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当月退所者	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
就労継続B型	男性	21	21	21	21	21	21	21	20	20	20	20
	女性	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
	計	31	31	31	31	31	31	31	30	30	30	30
	利用率	117	98	116	102	90	109	111	115	109	103	114

※利用率(%)：当月の延べ人数÷定員*開所日数

◎就労定着支援

(人)

利用者/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
在籍者	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
当月入所者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当月退所者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
就労定着	男性	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	実績	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

◎訪問型職場適応援助者(ジョブコーチ)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
活動件数	4	4	1	3	4	12	7	7	7	5	4	3

②その他利用者情報（障害支援区分と援護市の状況）

2023年3月31日現在（人）

事業名		就労継続B型	就労定着
障害支援区分	区分6		
	区分5	1	
	区分4	8	
	区分3	7	
	区分2	2	
	区分1		
	区分なし	12	1
援護市別利用者数		松原市 21 大阪市旭区 1 大阪市平野区 1 岸和田市 2 富田林市 1 羽曳野市 2 藤井寺市 2	松原市 1

③年齢の状況

2023年3月31日現在（人）

事業名		就労継続B型	就労定着
19歳以下	男	1	
	女		
20歳～29歳	男	6	1
	女	2	
30歳～39歳	男	1	
	女	1	
40歳～49歳	男	3	
	女	4	
50歳～59歳	男	7	
	女	3	
60歳～69歳	男		
	女		
70歳以上	男	2	
	女		
平均	男	43.2	29
	女	43.0	

④ 就労支援の状況

◎就職者の状況

・令和4年度 実績1名

(1) 11月1日就職

◎工賃実績（令和4年度）

月	工賃総額	支給人数	平均
4月	292,160	28	10,434
5月	329,260	31	10,621
6月	392,710	31	12,668
7月	358,840	31	11,575
8月	304,230	31	9,813
9月	369,850	30	12,328
10月	431,480	31	13,918
11月	325,620	31	10,503
12月	394,780	30	13,159
1月	308,910	30	10,297
2月	315,350	30	10,511
3月	323,360	30	10,778
年間	4,148,260	364	
平均	345,688	30.3	11,396

ホームズあまみ

①利用者の状況

2023年3月31日現在 (人)

利用者/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
在籍者	46	46	45	45	46	46	46	46	46	46	46	46
当月入所者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当月退所者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
GH	男性	41	41	41	41	41	41	41	41	41	41	41
	女性	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
	計	46	46	46	46	46	46	46	46	46	46	46
	利用率	97.7	95.5	97.1	97.6	94.0	95.5	95.5	97.2	96.2	96.2	96

※利用率(%)：当月の延べ人数÷定員*開所日数

②その他利用者情報（障害支援区分と援護市の状況）

2023年3月31日現在（人）

事業名		GH
障害支援区分	区分6	0
	区分5	7
	区分4	13
	区分3	21
	区分2	3
	区分1	2
	区分なし	
援護市別利用者数	松原市 19 大阪市 10 河南町 2 岸和田 2 高槻、枚方、門真、大東、東大阪、八尾、柏原、羽曳野、 高石、大阪狭山、和泉、阪南、奈良県斑鳩町 各1	

③年齢の状況

（人）

事業名		共同生活援助
19歳以下	男	—
	女	—
20歳～29歳	男	2
	女	0
30歳～39歳	男	—
	女	1
40歳～49歳	男	13
	女	3
50歳～59歳	男	20
	女	1
60歳～69歳	男	3
	女	0
70歳以上	男	3
	女	0
平均	男	51.0
	女	43.8

④ 夕食提供利用状況

(人)

夕食提供／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
夕食提供対象人数	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
延べ人数	37	33	42	24	15	26	26	40	35	23	34	43

・温かい作り立ての夕食を囲んで団欒をしていただくことを通じて、サービス利用の必要があるにもかかわらず関係が付きにくい方などが徐々に支援につながっている。

支援センターい～な

I 事業一覧

- | | | |
|-----------------|------------------------------|----------------------|
| ○ グーテン | (生活介護事業) | 定員 40 名 |
| ○ ホームズい～な | (共同生活援助事業) | 定員 33 名 (R4. 10. 1～) |
| ○ ホームズみのお | (共同生活援助事業) | 定員 20 名 |
| ○ ホームズみのお | (短期入所事業 併設型) | 定員 5 名 |
| ○ ホームズみのお | (日中一時支援事業) | 定員 5 名 |
| ○ ヘルパーステーションかやの | (居宅介護事業/移動支援事業) | |
| ○ 支援センターい～な | (計画相談支援・地域移行支援・地域定着支援・障害児相談支 | |

II 事業概要

【全体】

支援センターい～な各事業の利用者は、65 歳以上の高齢者が多く加齢が進んでいることに加えてコロナ禍での生活スタイルの変更や外出機会の減少により心身機能が低下し、生活スタイルの変化を求められることが多かった。そのような状況の中でも「自分らしく生きる」をモットーに、利用者のニーズに応え、寄り添うことができる事業所を目指す。そのために、事業所間の横断的な協力体制を強固なものとし、ご本人・ご家族・支援員、看護師、栄養士が一丸となって、外部の関係機関と連携し、利用者が安心して暮らせるよう支援した。ハラスメント撲滅委員会、虐待防止研修委員会、リスクマネジメント委員会を設置し、人権意識を高め虐待やハラスメントの撲滅に継続的に取り組んだ。

【グーテン生活介護】

利用者の尊厳(人権)を大切に、誰もが「自分らしく生きる」を実現するために職員及び事業所の専門性を高めてより良い支援が提供できるように継続的にケース会議、研修を実施した。個別支援と利用者のエンパワメントに着目した支援を行い、二分化している利用者の状況、在宅の若年層“ヤング”と、ホームズい～な・ホームズみのおを中心とした高齢者層“シニア”に分けて、重度、高齢化それぞれのチームに何が必要かを職員一人ひとりが主体的に考え、互いの状況を共有し、それぞれのニーズに対応できるようにチーム支援に取り組んだ。その結果、集中的支援が必要な利用者、医療行為を含む個別支援が必要な利用者、高齢者に見られる加齢に伴う介助や介護、ライフストーリーに対するアプローチなどの支援が必要な利用者について 3 つのグルーピングを検討し、チームの再編に取り組み来年度より実施することになった。

【ホームズい〜な】

コロナ禍の状況見ながら、高齢であっても地域で自分らしく生活できるように、障害福祉サービスと介護保険サービスの併用や、地域の社会資源を活用しながら、外出の機会を提供した。グーテン利用者においては、特に、日中活動の中で充足されるニーズと、ホームでの安定した生活を継続していくためのニーズを整理し、事業所間で連携したサービス調整を行った。

【ホームズみのお】

入所施設からグループホームに移行して6年目を迎える。コロナ感染症が蔓延する中、外出の制限をすることが多かった。来年度は、利用者の高齢化・重度化が進む中、ご本人のニーズやご家族の思いを大切に、地域資源を活用しながらひとり一人が希望する生活を送られるよう支援する。そのために介護の知識・技術だけでなく近年増加している行動障害のある利用者への特性の理解を深め支援の質の向上を図っていきたい。

【短期入所/日中一時支援】

家族のレスパイトや自立に向けての支援として、短期入所、日中一時支援事業を実施する。コロナ禍の中休止していた、短期入所・日中一時を再開した。短期入所については、レスパイトケア、グループホームの生活へ向けた練習の場等多くの方に利用していただけた。

【ヘルパーステーションかやの】

移動支援事業は、「ホームズい〜な」「ホームズみのお」の利用者が中心であるため、ひとり一人のニーズを丁寧に拾い上げ、充実した余暇支援につなげた。

【支援センターい〜な(相談支援)】

コロナ禍の中でもご本人・ご家族や事業所に確認を取り、できる限り面談できるように工夫する。コロナの感染対策の一環として Web を活用した会議も開催予定。他の事業との連携をより密にし、社会資源の情報提供、支援方法の提案等にも取り組んだ。

Ⅲ 令和4年度重点項目

【全体】

1. 人材確保と育成

育成会の事業所として今までに蓄積してきた高齢者支援のスキルやノウハウを法人の他事業所にも活用してもらえらるべく事例やデータをまとめていく。また、高齢の知的障害者の支援を専門にしている大学教授等とのつながりをつくることのできた。

利用者像の変化に伴い、職員構成の見直しが必要である。支援に高い専門性が必要な若年

層・中年層の利用者や、介護の技術や知識を必要とする高齢層に対して、対応する支援員や世話人の個々の支援力が試されている。慢性的な人材不足を解消するため、採用条件の見直しと、継続したOJT、研修の機会を確保した育成に取り組んだ。

2. い～な事業間の横断的な協力体制の確立

い～な職員は、担当の事業だけでなく、相互に協力し、適切なサービスと丁寧な支援を提供する。グーテンは、ホームズい～なやホームズみのおの利用者が8割を超える現状から、現在の課題や対応について、い～な全体で共有し、利用者中心の支援に結びつけるためのケアマネジメント会議を引き続き定例で実施した。また、グーテンのケース会議にホームズ職員も内容に応じて参加することで情報共有する機会をもった。

ホームズ・グーテン等事業の垣根を越えて、グーテンの月2回の開所日や送迎業務、グループホームを巡回または訪問し、食事の見守りや余暇支援等のバックアップ業務、新型コロナウイルス感染症の陽性者対応を協同で実施した。また、医務や栄養士も含め、住環境の整備・嚥下状況に応じた食事提供の仕方へのサポート及び確認をした。

3. 新型コロナウイルス感染症への対策

①新しい生活様式の実践

日常生活上での基本的な手洗い、手指消毒、検温、こまめな換気、3密の回避、GH換気扇の使用、二酸化炭素濃度チェック対応、健康チェックなど、引き続き感染症対策を徹底する。また、利用者への感染予防の意識付けに効果があった、顔認証温度検知システム(スタンド型体温計)を利用した、健康管理のデータ化により、利用者、職員の体調の変化に素早く対応する。また、各自の行動(外出等)への呼びかけを引き続き協力を促すよう行う。また、定期抗原検査の実施を行い、感染拡大及び感染者の早期発見につながった。

②新型コロナウイルス感染症のワクチンへの対応

クラスター防止の観点から、必要に応じPCR検査の受検を行う。また、嘱託医、協力医療機関の協力のもと、新型コロナウイルス感染症の(3回目以降の)ワクチン接種に向けた情報収集と、利用者等への説明、意思確認を行い、接種に必要な支援を行った。

【グーテン生活介護】

1. 個に着目した丁寧な支援

- ①合理的配慮を行うために創意工夫し、個別支援計画に基づいた支援を行うため日々のチームミーティング、職員終礼、毎月ケース会議を実施日々の支援につなげた。
- ②シニアチーム、ヤングチームそれぞれの状況に応じて利用者が主体的に活動できるようにプログラムや行事について絶えず検討しサービスを提供した。
- ③毎日終礼でヒヤリハット、事故の共有を行い、リスクマネジメントに取り組み転倒や喉詰り、排泄にまつわる支援に努めた。嘱託医(精神科医師による医療相談:毎月)、協力医療機関(歯科、管理栄養士、歯科衛生士による口腔ケア、嚥下問題:2か月に1回)と連携して支援を行った。高齢障害者への状態に合わせた介助技術を学び、必要な技術を身に着けるため大学との連携を図る準備を行い、次年度から具体的に取組むようにした。

④介護保険サービス、障害福祉サービスの利用について利用者の利益が損なわれないように介護保険サービス関係者、障害福祉サービス関係者と連携して支援を行った。

2. 信頼される事業所を目指す

丁寧で正しい言葉遣いを心がけ利用者、家族の相談を真摯に受けとめ、共に考えて問題に取り組んだ結果、着実に利用希望が増え、さまざまなケース、困難なケースの相談が増えた。4 支援学校(吹田、摂津、豊中、箕面)とのやり取りを中心に地域、関係機関と連携して見学、進路相談、体験実習などをコンスタントに行うことができた。その結果関係者との信頼関係を築き、卒業後の進路として選択してもらえるようになってきた。

3. 多職種連携

実際に嘱託医(精神科)、協力医療機関(歯科、口腔)、看護師、栄養士、関係機関との連携を実施した。その結果、嚥下の相談から訪問医療に繋がった利用者様もあらわれニーズにきめ細かに応えることができた。グーテンでの栄養士、看護師、支援員による個別の健康相談も定着することができた。

【ホームズ】

1. ホームズい～なとホームズみのおの一体化による運営

利用者の重度化・高齢化の問題は重要課題である。世話人、生活支援員の業務改善、支援力のスキルアップに努め、利用者が安全に安心して暮らせる事業運営を行っている。い～な、みのおを一体的に運営することで、事業の垣根を超えて、相互に関わる職員が増えたことにより、ホームズみのおの慢性的な人材不足の解消へと繋がったとともに、ホームズい～な緊急連絡対応(ショート利用など)をスムーズに行うことができた。また、業務改善に繋がる意見が出たり、確認共有の励行などにより、様々な視点で利用者支援を行うことができた。それらを通じ、シフト勤務の中で効果的な OJT へとつながり、働き甲斐のある職場へ近づけたと感じる。また、今後のい～な全体のグループホームの役割や位置づけについての検討が可能となった。(支援区分 4 以上:H い～な 88%、H みのお 100% 65 歳以上:H い～な 37%)

2. ホームズの再編成

重度化高齢化により、現状のグループホームでの生活を継続するにあたり、物理面(階段、段差など)や環境面(近隣との関係及び休日の日中支援面)において課題が生じている。これに対応するべく、介護保険サービス等暮らしやすい生活環境への転居や、ホームの閉鎖や移転等も含めた再編成の検討は行なったが、利用者状況の変化に伴い、1 ホーム閉鎖のみの対応となった。引き続き、各ホームの状況・利用者の状況にあわせて検討はしていく。また、夜間支援体制の見直しを行い、必要に応じた生活支援員の配置を行うように進めている。

3. 複数サービス利用に向けた調整

障害福祉サービスと介護保険サービスの併用、または、複数の事業所の利用等、地域の社会資源を柔軟に活用している。コロナ禍においても、必要なサービスは継続して利用でき

るよう、相談支援専門員、居宅介護支援専門員との連携を重視した。利用者の状況にあわせて迅速に相談支援専門員に依頼して、必要に応じて新規での介護認定や介護サービス利用へとつないでいった。また、現在、介護サービスの利用が無い方には今後を踏まえ、デイサービスなどの社会資源へと繋ぎを進めている。

4. 成年後見制度の活用

改めて、成年後見制度を活用することを家族へ説明し、申し立てへの道を作り、今まで以上に利用者の希望を明確にし、生活基盤を強固にしていくために動いた。

また、事務手続等の効率化にもつなげていけるように進めている。

【ヘルパーステーションかやの】

コロナ禍の中では、外出の機会さえも制限されるので、身近な場所の意外な活用方法、の提案を行っている。また、利用者の意思を改めて確認するため、グループホームや日中活動の職員と協力し実施した。

IV 年間行事、日課など

【ゲーテン日課】

9:30	通所・バイタルチェックなど
10:30	午前の活動
11:30	健康体操 口腔体操など
12:00	昼食 休憩 歯磨き
13:00	午後の活動
15:00	作業終了 片づけ 終礼
15:30	帰宅準備
16:00	退所

【年間行事】

- 4月 お花見
- 6月 共に生きるコンサート
- 7月 セタ行事
- 10月 い〜なまつり
スポーツフェスタ
- 11月 グループ別日帰り旅行（シニア）
- 12月 グループ別日帰り旅行（シニア）
- 3月 USJ 日帰り旅行（ヤング）
お花見

<ヤングタイムスケジュール>

	月	火	水	木	金
	言葉	心	体	仕事(はたらく)	創作(つくる)

午前	作業 (チェアロビクス)	書道・おんどく ／動作法	徒歩プログラ ム	作業	作業 (工賃支給)
午後	音楽・おんどく	清掃(環境整備) 園芸作業含む	つばき会 作業	作業	創作

<定例活動のプログラム>

チェアロビクス・書道・動作法・手芸・ライフプラザバザー・健康エクササイズ・もみじ会・つばき会・お茶会・お華・アート

V 事業概況

I 利用者の状況

<ホームズい～な>

利用者／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
定員	36	36	36	36	36	36	33	33	33	33	33	33
空き	7	8	9	10	10	10	7	7	7	7	8	9
当月入所者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当月退所者	2	1	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1
	男性	14	14	14	13	13	13	13	13	13	13	13
	女性	15	14	13	13	13	13	13	13	13	13	13
	計	29	28	27	26	26	26	26	26	26	26	25
	利用率	85.1	85.1	86.5	81.3	78.9	80.6	81.8	81.2	78.6	75.9	77.2

<ホームズみのお>

利用者／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
定員	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
空き	2	1	1	2	1	1	1	1	0	0	0	0
当月入所者	0	1	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0
当月退所者	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1
みのお	男性	8	9	9	10	10	9	9	9	10	10	9
	女性	10	10	9	9	9	10	10	10	10	10	10
	計	18	19	18	18	19	19	19	19	20	20	19
	利用率	79.8	82.3	85.3	80.2	86.0	89.0	91.3	89.2	92.3	89.5	94.5

<ホームズみのお短期> 定員 5

利用者／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
男性	0	0	3	3	2	6	8	2	4	0	4	6
女性	0	0	2	4	0	4	6	4	9	8	28	33
計	0	0	5	7	2	10	14	6	13	8	32	39
利用率%	0	0	3.3	4.5	1.2	6.6	9.0	4.0	8.3	5.2	22.8	25.2

<ホームズみのお日中一時>

利用者／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
男性	0	0	0	1	1	2	1	1	0	0	0	0
女性	0	0	0	0	1	0	3	6	5	2	5	5
計	0	0	0	0	2	2	4	7	5	2	5	5
利用率	0	0	0	1	2	2	4	7	5	2	5	5

<生活介護 グーテン>

利用者／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
在籍者	53	54	53	53	53	53	52	51	52	52	52	51
当月入所者	2	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
当月退所者	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	2
生活介護	男性	21	22	22	22	22	21	20	21	21	21	21
	女性	32	32	31	31	31	31	31	31	31	31	30
	計	53	54	53	53	53	53	51	51	52	52	51
	利用率	74.4	74.1	77.7	64.2	80.1	78.5	76.8	71.9	73.9	63.0	73.8

※利用率(%) : 当月の延べ人数 ÷ (定員 * 開所日数)

<居宅介護 ヘルパーステーションかやの>

利用者／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
豊中市	1	0	0	1	0	0	1	1	1	1	0	1
吹田市	1	1	1	1	0	1	1	1	1	0	0	1
門真市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
東大阪市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
箕面市	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1	0	0
守口市	0	0	0	1	1	1	1	0	1	1	1	1
堺市	1	0	1	0	1	1	1	1	1	1	0	1

計	5	3	4	5	3	5	6	5	6	5	2	5
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

◎その他利用者情報（3月31日現在）

事業名		ホームズ い～な	ホームズ みのお	短期入所	日中一時支援	生活介護
障 害 支 援 区	区 分 6	2	8			15
	区 分 5	10	8			22
	区 分 4	9	3			11
	区 分 3	2	0			3
	区 分 2	1	0			0
	区分1以下	0	0			0
援護市別利用者数		寝屋川市 1 豊中市 12 守口市 1 東大阪市 1 吹田市 1 交野市 1 門真市 1 箕面市 3 大東市 1 大阪市平野区 1 大阪市東淀川区 1	箕面市 4 豊中市 2 豊能町 1 吹田市 5 大阪市東住吉区 1 大阪市淀川区 1 松原市 1 摂津市 1 高槻市 1 彦根市 1 守口市 1			箕面市 19 豊中市 8 守口市 2 交野市 1 吹田市 9 寝屋川 市 1 門真市 1 東大 阪市 2 大阪市平野 区 1 大阪市淀川区 1 大阪市大正区 2 高槻市 1 彦根市 1 摂津市 1 松原市 1

支援センターさくら

○ 事業内容

I 生活支援部門	
1 ホームズさくら・ホームズなでしこ（共同生活援助事業・併設型・空床型短期入所）	定員 86 名
2 短期入所・日中一時支援事業	
II 相談支援部門	
1 さくら相談支援事業	
2 大阪あんしん賃貸支援事業	
3 北河内東障害者就業・生活支援センター事業	
4 大東市障害者インターンシップ事業	
5 大東市就労支援コーディネーター活動推進事業	
6 大東市障害者職場定着支援事業	
III 就労支援部門	
1 自立訓練（生活訓練）事業	定員 15 名
2 就労移行支援事業	定員 25 名
3 就労継続支援 A 型事業（フードサービス・ビルメンテナンス）	定員 10 名
4 就労継続支援 B 型事業（さくらプラス）	定員 10 名
5 就労定着支援事業	

I 生活支援部門

1 ホームズさくら・ホームズなでしこ（共同生活援助事業・併設型・空床型短期入所事業）

【事業概要】

ホームズさくらは 16 ホーム（33 住居）定員 67 名と、ホームズなでしこは 2 ホーム（2 住居）定員 19 名と、全体で 18 ホーム（35 住居）定員 86 名の法人内でも最も多い数のグループホームの運営に取り組み、利用者一人ひとりの個別支援計画に基づき、地域で安心した生活が営めるように支援にあたった。

また、利用者の高齢化に伴い医療との連携を強化し、新型コロナウイルス感染症への対応や、病気・けがなどの予防に努めるとともに、年齢に応じた安心で安全な質の高い支援の提供を行った。

【令和 4 年度の重点課題及び取組】

(1) ホームズさくら・なでしこの一体的な事業運営

世話人（約 80 名）の雇用管理をしながら、新たな世話人の確保、定着や育成と、利用者支援を並行して取り組んでいるが、現状は担当職員が利用者支援に費やす時間が取れていない実態があった。

そのため、令和 4 年度から職員を増員し、ホームズさくら・ホームズなでしこのパッ

クアップが一体となって取り組めるよう体制を整えた。また、世話人の雇用・労務管理体制についても、ガバナンスを強化するため、所長・課長を中心とした体制に見直し、担当職員が利用者支援にあたるよう取り組んだ。

令和5年1月の養護者による虐待事案については、支援センターさくらの相談支援事業と連携しながら利用者が混乱なく生活が継続できるようにサービス調整や関係機関との会議開催などに積極的に取り組んだ。結果、市の虐待対応（虐待認定したことの報告がない、主体性のない対応など）に疑問を感じたため、大阪府権利擁護センターにも連絡を入れ対応にあたった。

(2) ホームズなでしこ老朽化への対応

ホームズなでしこは、2005年8月に設立し約17年が経過する。老朽化に伴う修繕にも計画的に取り組む、令和4年度はエレベーターの部品交換（174万円）に取り組んだ。

また、ホームズさくら（新きたしんまち）については、住宅の改修工事（129万円）を行い、次年度に新たな利用者を迎える予定である。

(3) 貴重金品等預かりサービスの開始

これまでの財産管理の支援策として、利用者約55名の金銭管理（出納事務・両替等を含む）と、利用者約77名の貴重品（預金通帳・年金証書等）管理を無償で提供してきたが、ご家族等の高齢化に伴い管理件数が増加し、事務量や人件費が膨大となってきたため、令和4年度10月～管理規程を定め、希望する利用者に対しては有料で貴重金品等預かりサービスを開始した。これまで以上に安全でかつ安心できるサービス提供に取り組むため、事務所内に防犯カメラを設置したり、管理体制の強化（ダブルチェック・鍵の管理など）にあたった。

■管理件数（令和5年3月31日時点）

- 金銭・通帳の管理（月額1,200円） 54名 ※内5名の生活保護受給者は無料
- 貴重品管理（月額500円） 73名

(4) 感染症や災害への対応力の強化

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い24名の利用者が罹患し、陽性者支援等の対応に取り組んだ。集団ワクチン接種（4回目8/21.5回目12/25実施）の実施や、感染拡大防止（マスク着用・換気や消毒の実施など）に迅速に取り組んだ結果、グループホーム内でクラスター感染することはなく、かつ重症化する方の発生もなかった。また、陽性者支援にあたった職員も適切な感染対策を講じていたため罹患者はせず、感染者対応にあたりながらも通常の事業を止めることなく、職員・世話人が一丸となって支援に取り組んだ。自然災害対策については、令和5年1/25朝に発生した寒波に備えるため、前日から対応（各ホームへの事前連絡や世話人・職員が出勤できない状況を想定した対応）にあたり、大きな混乱なく乗り切ることができた。今後も有事に備えて利用者・世話人・職員一人一人が危機管理意識を高めていけるよう、定期的な訓練実施や設備点検等に取り組んだ。

■月ごとの新型コロナ感染者発生件数と陽性者支援にあたった職員数（特別手当支給額）

※記載のない月は発生なし

年月	件数	対応職員（特別手当）
令和4年4月	1名	0名
令和4年7月	3名	3名（26,000円）
令和4年8月	8名	7名（56,000円）
令和4年9月	3名	4名（16,000円）
令和4年11月	4名	2（10,000円）
令和4年12月	1名	6名（42,000円）
令和5年1月	1名	2名（4,000円）
令和5年2月	3名	5名（32,000円）
合計	24名	29名（186,000円）

事業概況

1. 利用者の状況

利用者／月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
在籍者		80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80
当月入所者		0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
当月退所者		0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
ホームズさくら	男性	47	47	47	47	47	47	47	46	46	46	46	46
	女性	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
	計	63	63	63	63	63	63	63	62	62	62	62	62
	利用率	88.5%	82.7%	88.1%	85.5%	81.3%	83.0%	85.4%	84.5%	82.8%	81.2%	84.2%	85.9%
ホームズなでしこ	男性	9	9	9	9	9	9	9	10	10	10	10	10
	女性	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
	計	17	17	17	17	17	17	17	18	18	18	18	18
	利用率	84.2%	81.6%	85.6%	86.4%	82.8%	84.3%	85.2%	86.8%	87.0%	86.2%	90.2%	91.6%
短期入所 併設型空床型	男性	1	2	2	1	1	1	1	2	1	1	1	2
	女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	1	2	2	1	1	1	1	2	1	1	1	2

※利用率（％）：当月の延べ人数÷定員*開所日数

2. 障害支援区分と援護市の状況（人）

事業名		なでしこ	さくら
障害支援区分	区分6		
	区分5	2	6
	区分4	6	24
	区分3	6	14
	区分2	4	18
	区分1		
	区分なし		1
援護市別利用者数	大阪市 4人 大東市 5人 寝屋川市 2人 枚方市 1人 交野市 1人 八尾市 1人 堺市 2人 門真市 1人 柏原市 1人	大東市 19人 四条畷市 8人 東大阪市 8人 枚方市 6人 寝屋川市 4人 門真市 3人 大阪市 3人 交野市 4人 八尾市 2人 守口市 2人 吹田市 1人 豊中市 1人 松原市 1人 堺市 1人	

3. 年齢の状況

事業名		なでしこ	さくら
19歳以下	男	1	
	女		
20歳～29歳	男	1	2
	女	2	5
30歳～39歳	男	5	9
	女	3	4
40歳～49歳	男	3	14
	女	0	4
50歳～59歳	男	0	18
	女	3	3
60歳～69歳	男	0	3
	女	0	1
70歳以上	男		
	女		

平均	男	35.4 歳	46.9 歳
	女	40.3 歳	39.6 歳

2 短期入所・日中一時支援事業

【事業概要】

将来に向けて自立生活をイメージした具体的な生活場面での様々な経験を通じ、必要な技術等の習得を支援すると共に、家族の入院等、緊急時の支援にも対応できるようサービスを提供している。地域の中で本事業が担う役割を理解し、一人ひとりへの丁寧な支援を実践するとともに、家族へのレスパイトケアの対応やさくら内他事業との連携による資源活用等、多様化する利用希望に応えられる体制整備に努めている。また、地域生活支援事業（日中一時支援）の実施による日中活動の提供など、幅広いサービス提供により利用者ニーズに対応している。

【令和4年度重要課題及び取組】

令和4年度の宿泊延べ日数については、3年度と比較して8.4%減った。その背景には新型コロナウイルス感染症の第7波の影響が大きかった。

さくらの短期入所サービスエリアは、法人の新型コロナウイルス感染症への対策指針に基づいて、緊急時に感染者等対応居住エリアの施設として設備等を提供することを位置づけている。

そのため、令和4年度は、7月24日から8月20日までと8月24日から9月3日までを、感染されたグループホーム利用者の隔離居住施設として提供し、「短期入所」の通常利用をストップさせていた。

一方で、令和3年度から開所日を週6日に拡大し、定員を本来の6名から原則1室1名の4名に、食事についても原則各居室で提供する等、感染防止対策を徹底して利用者に安全に利用していただける環境の確保を前提に、できる限り多くのニーズに応えられる体制づくりに努め、連泊利用者を増やしたり新規ケースの受け入れも行った。

日中一時支援は、日帰り4時間の利用の方が令和3年度と比べ約30%増で、日帰り8時間も1.5倍利用者が増えた。これは、継続的な日中活動に参加することが困難な方などに対して、安心して過ごせる「居場所」づくりの場として工夫している成果であると考えられる。

◎ 居宅支援サービスの状況（令和3年度）

利用量\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
日帰り4H	9	6	9	9	3	5	7	5	7	8	5	7	80
日帰り8H	32	27	36	34	38	33	31	25	36	13	16	21	342
1泊2日	94	84	82	60	2	74	84	88	80	62	76	80	866
2泊3日	12	21	18	18	6	27	15	30	21	24	21	33	246

3泊4日	12	8	12	8		8	16	4	8	16	16	8	116
4泊5日	5		5		5							5	20
5泊6日													
6泊7日													
7泊8日													
緊急一時													
宿泊延べ日数計	123	113	117	86	13	109	115	122	109	102	113	126	1248

II 相談支援部門

1 さくら相談支援事業（特定・一般・障害児）

【事業概要】

相談支援事業は、地域の中でその人らしい暮らしを続けていくために、利用者の権利擁護の視点に立ち、家族、支援者、行政等とネットワークを構築しながら行うものである。また利用者が本来持っている力（ストレングス）に着目し、利用者のエンパワメントを高める本人中心の相談支援となるよう、細心の注意を払いながら丁寧な相談支援の実践を心がけている。

【令和4年度課題と対応】

令和4年度より、相談支援事業の拠点を「就労支援統括センターみいーん」より支援センターさくらに移設。但し人員は、相談支援専門員1名を支援センターに配属、相談員1名はGHとの連携の必要からホームズさくら・なでしこに配属。エリア内各事業との有機的な連携を密にし、本人中心のマネジメント手法等の啓発や地域資源の連携強化等の実践、大東市障害者総合支援協議会（地域自立支援協議会）への参画から、さくら内の福祉サービス全般の質向上に良い影響を与える存在になっている。

下半期には相談支援事業に関する育成会の全体方針を踏まえ、さくら事業の整理・縮小化の一環として、計画相談のみの利用者をセルフプランもしくは終結していく方向で取り組むこととなった。援護市に理解を得られるように進めてきた。

また、養護者による虐待事案等の支援困難ケースについては、問題解決のために行政や障害福祉サービス事業所等の関係機関と連携するとともに、「とにかくつながること」を重視した支援に心がけた。ケースに応じてさくらの短期入所事業も活用するなど柔軟に対応した。

◎相談支援

種類／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
計画相談総契約者数	60	60	60	60	60	59	57	57	57	55	54	52
（内障がい児数）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計画案作成件数（者）	3	5	9	2	5	7	6	5	5	3	1	2

計画作成数（者）	2	4	4	9	2	4	8	6	5	5	2	1
モニタリング数（者）	10	12	14	6	10	12	9	13	16	5	12	12
計画面作成件数（児）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計画作成数（児）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
モニタリング数（児）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地域定着支援 態勢確保（契約数）	8	8	8	8	8	8	7	7	7	7	6	6
緊急支援（回）	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2	6
地域移行	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

2 大阪あんしん賃貸支援事業（大東市）

【事業概要】

民間賃貸住宅に入居を希望する知的障がい者が、円滑に入居できるよう、民間賃貸住宅に関する情報提供や様々な居住に必要な福祉サービス支援の情報提供等を行なう。平成 31（令和元）年度は実績なし。

3 就労支援統括センター 支援センターみいーん

就労支援統括センターみいーんは法人内の就労支援を統括していくセンターとして、平成 30 年 4 月より大東市（住道）にて設置され、丸 4 年が経過した。令和 3 年度には事務所を JR 住道駅前に移転する。今年度においても、ワーカーの年度途中での交代や事務職員不在などによる体制整備が必要となりセンター全体で協力体制を敷き難局を乗り切る 1 年となった。

また、心理職の配置を行い、ケース会議のスーパーバイズを担ってもらった。加えて新規採用の時給制職員・エルチャレンジスタッフをはじめとする研修を担当してもらう。

（1）北河内東障害者就業・生活支援センター事業

【事業概要】

就業と生活を一体的に支援する本事業は、本年度においても、就業・生活相談の取り組みと、障害者雇用啓発という両面からその活動を行った。

令和 4 年度においては、保護者、就労支援事業所、企業担当者等を対象にした障害者雇用の啓発セミナーや勉強会開催に重点的に取り組んだ。

【令和4年度重点課題及び取組】

昨年度からの継続イベントとして、就労支援啓発セミナーを 4 回開催。保護者を対象として障害者雇用の啓発を行う内容を提供した。コロナ禍のため、YouTube ライブでのオンラインセミナーとして実施した。

また、企業担当者等を対象にセミナー及び勉強会を 3 回実施。企業における障害者雇用の取り組み発表や、社内理解の推進、生活支援との関わりなどをテーマに雇用管理の課題を共有、相談するための場となった。

他、ハローワーク門真、北河内西障害者就業・生活センターと共催で、当事者、企業支援機関を対象とした障害者雇用ナビゲーションセミナー を 2 回開催し、障害者雇用

受入れ企業からの実践報告や、就労支援セミナー、模擬面接会などを行った。
 障害手帳非保持者（障害のある大学生等）への対応については北河内圏域の労働機関及び各大学と協力し、障害のある大学生への支援の試みを話し合う会議を継続している。
 概要でも述べた通り、雇用率ビジネスの農園が大東に進出してくる中で、その根底に企業側の雇用管理に寄り添う機関の少なさが企業を孤立させた側面がある。そこで、企業に伴走し雇用管理のノウハウを習得してもらう必要があると考え、啓発に取り組んだ。
 また、雇用率一辺倒の評価システムにも警鐘を鳴らしていきたい。

その他プログラムや、事業の特筆すべき事項など

- 働いている方との相談（定着支援相談）を定期的に行き、就労状況の確認と共に余暇の支援を行った。（毎月1回土曜日または日曜日）定着面談に関しては対面面談の増加に加え、WEBや電話での相談も併せて多い状況である
- エンパワメント研修を上記の相談と同日で開催（隔月1回土曜日または日曜日）し、勉強会やグループワークを行った（スマホ・ケータイ安全教室、ストレスマネジメント、悪徳商法対応、マイノート作成等）

内 容	件 数 等	備 考
新規相談人数	87 名	（内訳）知 35 精 34 身 5 その他 13（発達 12 高次脳 0 難病 0 その他 1）
延相談件数	2987 回	
職場訪問による定着支援	206 回	※実習支援、訪問付き添い、アフターケア等
就職者	58 名	（内訳）知 30 精 20 身 2 その他 6（発達 6 高次脳 0 難病 0）

（2）大阪知的障害者雇用促進建物サービス事業協同組合（エル・チャレンジ）

【事業概要】

日常清掃訓練においては、訓練生の就職に向けて意欲・技能の向上を目指す。そのため定期的に現場を訪問し、訓練生及びサポーターに対しての支援を実施する。

短期清掃訓練においては、可能な限り訓練現場周辺地域の各支部に参加していただくとともに、就労意欲への足がかりとなるよう努めると共に工賃が報酬単価に影響を及ぼす B 型事業への作業提供を積極的に行った。

【令和4年度課題】

日常清掃に関しては、深刻な訓練性不足が年間を通じて起こり、特に長期にわたり訓練生が不在の現場も数か所あった。特に、法人内の就労移行からの訓練生が激減している。近隣の他法人事業所や就業・生活支援センターに声をかけ一定数の訓練生の参加があったものの、定員を埋めるまでには至っていない。事業の委託者である大阪府より指導も受け、最悪現場の閉鎖も示唆される状況である。加えて、現場で支援を行うスタッフの人員不足も深刻で、みいーん総出でスタッフの穴を埋める事が多い一年であった。

短期清掃に関しては、例年と同程度の件数を受注出来たが、作業を受けてもらえる福祉事業所を探すのに苦労し、特定の事業所に作業が偏った。

(3) 大東市委託事業

①大東市障害者インターンシップ事業

【事業概要】

大東市役所の業務等を通じて障害者の就労意欲を高め、就労後の職場定着の促進を図る。

【令和4年度課題と取組】

実施啓発に課題がある。年度当初は参加者が集まりにくい状況であったが、後半は希望者が重なり、1名の参加を断った。引き続き SNS を活用し、啓発を行うことにする。

②大東市就労支援コーディネーター活動推進事業

【事業概要】

大東市の就職困難者に対してコーディネーターを配置し、相談を行う。

4年度は相談件数が年度末にかけて増えてきた。地域・ハローワークへの啓発も効果が徐々に出てきていると考えられる。

【令和4年度課題と取組】

年度末にかけて相談者が増えてきているが今後も地域への啓発を引き続き行いたい。

次年度は、更にハローワークとの連携強化に力を入れ、実績を上げていきたい。

③大東市障害者職場定着支援事業

【事業概要】

当センター内に職場定着支援コーディネーター1名を配置する。障害福祉サービス事業所（生活介護・自立訓練を含む）を退所後、企業に就職された障害者に対して、所属していた障害福祉サービス事業所の協力を得て支援員を派遣していただき、職場定着をサポートする。

【令和4年度課題と取組】

障害福祉サービスの「障害者就労定着支援事業」が実施され、それを受け、新制度を利用する事業所に関しては大東市障害者職場定着支援事業の利用は出来なくなった。引き続き大東市民であれば他市の福祉事業所でも利用できる様に交渉を続けた結果、他市事業所が利用可能となったが、そもそもの定着支援を行っていない事業所が少なく本年の新規利用の数は0件であった。一方、定着支援員の養成講座においてはそのニーズが高いものの、コロナの影響で1回のみ開催となった。

(4) 訪問型職場適応援助者（ジョブコーチ）

【事業概要】

職場適応援助者支援事業は、職場に出向き、障害特性を踏まえた直接的で専門的な支援を行い、障害者の職場適応、定着を図ることを目的としている。

その支援は障害者本人だけでなく、事業所や障害者の家族も支援の対象としており、事業所の上司や同僚による支援（ナチュラルサポート）によってスムーズに移行していくことを目指す。

【令和4年度課題と取組】

令和4年度は3名のジョブコーチを登録し年間通じて支援を実施した。エルチャレンジの訓練修了者、さくらOB、就業・生活支援センター登録者などを支援している。

Ⅲ 就労支援部門

1 自立訓練（生活訓練）事業

【事業概要】

利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、当該利用者に対して標準2年間にわたって自立訓練（生活訓練）を行い、生産活動その他の活動の機会を通じて、社会生活に必要な知識及び能力の向上のために必要な支援を提供している。

本事業は「将来自立して働きたいけど何をしたら良いかわからない」、「就労移行の2年だけで就職を目指すのは不安である」、「仕事以外の事も学び経験を積んで社会に出たい」という利用者やご家族のお声などから平成26年に誕生したもので、さくらでは、利用者のエンパワメントに重点を置いた支援を提供している。

【令和4年度課題と取組】

利用者自身が自分の人生の主体者として様々な支援を受けながら「自分で考え、自分で決められる」力の獲得を目指して支援を提供している。とりわけ支援学校等の卒業後から利用されるケースが多いことを踏まえ、活動の様々な場面において、できる限り小さな成功体験を積み上げられるよう目標設定に配慮することや、取り組みの結果だけでなく、その取り組み姿勢や過程を含めて評価することに留意し、利用者の自尊感情や自己肯定感の醸成に繋がる支援の提供を心掛け、その年代に合わせた多様な社会生活体験等の機会提供に努めた。

加えて、さくら内の就労移行支援事業に移行する利用者については、自立訓練事業で積み上げた支援の内容を丁寧引き継ぐとともに、必要に応じて、事業を横断して直接支援に関わる等、連続性のある支援の提供を心掛けた。

令和4年度のプログラムは、コミュニケーションプログラム、体と心の幸せプログラム、身だしなみプログラム、運動プログラム、生活プログラム、調理実習、軽作業、ぷくぷくカフェ（福祉センター）実習、企業等実習などのほか、利用者ニーズに応じた個別プログラムを実施した。

2 就労移行支援事業

【事業概要】

利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、当該利用者に対して標準2年間にわたって就労移行支援を行い、生産活動その他の活動の機会を通じて、就労及び社会生活に必要な知識及び能力の向上のために必要な支援を提供した。

【令和4年度課題と取組】

一般就労への移行を役割としている就労移行支援について、移行実績が低調な就労移行支援事業所が一定数存在すると言われる中、さくらでは令和元年度は13名、コロナ禍に

より不安定な景況感が続いた2年度も5名、3年度は6名の就職者を出してきた。令和4年度の進路実績は一般就労者が11名、A型への移行2名、B型への移行1名であった。

一般就労先の内訳として、5名は過去の利用者の就職先など信頼関係が構築されている企業、6名はハローワーク等との連携によって効率的にアプローチできた企業であった。

さくらでは、就職率の向上を目指すため、就職に向けての準備・訓練として、さくら内での各種プログラムの内容の充実に加え、プログラム、訓練を通して得られたアセスメント結果を本人へフィードバックし、納得を得たうえで個別支援計画に反映するというサイクルを回すことで個々のスキルと共に自己理解の積み上げを行っている。また、利用者と企業のミスマッチ低減にあたり、職場定着を見据えた環境整備に留意し、雇用前の職場実習やトライアル雇用に積極的に取り組んだ。

また、可能な限り利用者やその家族の希望に沿う就労支援を意識し、就職先を見つけることのみを重要視するのではなく、利用者ニーズに応じた働き方を形にするべく、懇談会（モニタリング会議）の機会を一つの意思決定支援として位置づけ、利用者が就職後もやり甲斐を感じて働ける「ディーセントワーク」（働きがいのある人間らしい仕事）の実現を追求する支援の提供を目指した。

◎日課

就労移行支援事業

午 前		午 後	
9:00	検温・健康チェック	13:00	PM日課開始
9:30	朝礼・AM日課開始	14:15	休憩（15分）
12:00	昼食（食堂）	15:45	日課終了（片付け・清掃）
12:30	休憩（作業棟）	16:15	終礼・帰宅

自立訓練事業

午 前		午 後	
9:30	検温・健康チェック	13:30	PM日課開始
10:00	朝礼・朝の取り組み	14:25	休憩（10分）
10:30	AMプログラム	15:30	日課終了（片付け・清掃）
13:30	昼食（食堂）	15:45	夕方の取り組み
13:00	休憩（食堂・訓練室）	16:00	終礼・帰宅

◎年間行事

月日	就労移行支援事業・自立訓練事業
6月17日	支援学校等進路懇談会（WEBとの併用）
10月25日	支援学校等進路懇談会（WEBとの併用）
2月10日	クラフトイベント

- ・新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、さくらフェスタ（11月）や就職者激励会等の主要行事については中止した。小規模の取り組みとして就職者等の歓送会は開催。
- ・余暇支援プログラム、土曜開所等のプログラム等の活動についても同様に中止。

◎利用者の状況

(人)

利用者／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
在籍者	48	47	44	45	44	42	41	41	41	40	40	39	
当月入所者	14	0	0	1	0	0	0	2	0	1	0	1	
当月退所者	0	2	2	0	1	3	0	2	1	1	1	4	
就労移行	男性	22	21	21	21	21	19	18	19	19	17	17	17
	女性	5	5	5	5	5	4	4	2	2	2	2	2
	計	27	26	26	26	26	23	22	21	21	19	19	19
	利用率	106%	100%	97%	112%	88%	89%	83%	82%	80%	72%	76%	67%
自立訓練	男性	6	6	6	6	6	6	6	7	7	7	7	6
	女性	5	5	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
	計	11	11	9	9	9	9	9	10	10	10	10	10
	利用率	68%	66%	59%	59%	49%	55%	56%	58%	63%	56%	60%	67%

※利用率（％）：当月の延べ人数÷定員*開所日数

※就労アセスメントの利用者は含まない。

その他利用者情報（障害支援区分と援護市の状況）

(人)

事業名	自立訓練	就労移行	就労定着	
障害支援区分	区分6			
	区分5			
	区分4	2	1	1
	区分3	1	5	3
	区分2	1	2	4
	区分1		1	1
	区分なし	7	9	3
援護市別利用者数	大東市 1 寝屋川市 1 枚方市 2 大阪市 2 四條畷市 1 交野市 1	大東市 4 寝屋川市 3 枚方市 3 大阪市 1 四條畷市 3 門真市 3	大東市 1 寝屋川市 4 枚方市 1 四條畷市 3 東大阪市 1 八尾市 1	

	八尾市 1 東大阪市 1 堺市 1	東大阪市 1	大阪市 1
--	-------------------------	--------	-------

(年齢の状況)

事業名		自立訓練	就労移行	就労定着
19歳以下	男	5	4	
	女			
20歳～29歳	男	3	11	7
	女	3	2	4
30歳～39歳	男			
	女			1
40歳～49歳	男			1
	女			
50歳～59歳	男		1	
	女			
平均	男	22.8歳	19.1歳	24.8歳
	女	21歳	20歳	27歳

令和4年度工賃（就労移行・自立訓練）

	平均支給額	最高額	最低額
4月	4, 113円	11, 790円	40円
5月	4, 087円	13, 820円	50円
6月	6, 433円	19, 930円	260円
7月	7, 031円	21, 040円	800円
8月	6, 918円	19, 840円	400円
9月	8, 713円	20, 380円	410円
10月	8, 984円	23, 750円	2, 280円
11月	8, 046円	17, 090円	770円
12月	9, 763円	23, 400円	1, 200円
1月	7, 065円	15, 860円	950円
2月	8, 140円	14, 500円	930円
3月	8, 325円	25, 290円	810円

3. 就労継続支援A型事業（フードサービス・ビルメンテナンス）

【事業概要】

スワン店舗でのパン製造及び販売、接客業務又は出張による販売業務等、雇用契約に基づく就労機会の提供を通じ、働く喜びや社会との繋がりを実感できる場の提供を図るとと

もに、家と職場の往復だけでなく、生活を楽しむための余暇支援を通じて、社会経験を増やし、コミュニケーション力の向上や上手なお金の使い方を身につけるなど、自分らしい豊かな生活の実現にむけた支援を提供した。

【令和4年度の課題と取組】

令和3年度より、関係先企業や学校等の外販受け入れが徐々に再開。令和4年度4月5月は、その流れで好調なスタートを切るが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大や労災事案等を受けて第2四半期の売上げが大きく落ち込んだ。その一方で令和4年度の売上げ推移を見たときに、百貨店の催事出店（通年）等により、店舗外販売が店舗内販売よりも上回る状況が明らかとなった。これまで廃棄するだけだったロス商品についても、ロスのサブスクリプションサービス「Rebake（リベイク）」等により、大幅に減らすことができるようになった。

また、大阪府福祉情報コミュニケーションセンターの清掃業務受託については、引き続きみいーんと連携によりA型利用者1名が清掃作業に従事した。

しかし、A型事業の収支は依然厳しく、さくら内でもA型・B型の事業見直しを検討し、次年度からプロジェクトチームを法人内で立ち上げ、経営改善を図ることとなった。

就労継続支援B型事業（フードサービス・ビルメンテナンス）

【事業概要】

スワン店舗でのパン製造及び販売、接客業務又は出張による販売業務に加え、さくら管理棟会議室やトイレ等の清掃、エルチャレンジ清掃作業の場面提供を通じて、働く喜びや社会との繋がりを実感できる機会を提供するとともに、家と職場の往復だけでなく、生活を楽しむための余暇支援を通じて社会経験を増やし、コミュニケーション力の向上や上手なお金の使い方を身につけるなど、自分らしい豊かな生活の実現にむけた支援を提供した。

【令和4年度の課題と取組】

A型事業の縮小に伴い、令和3年6月から大阪府の指定を受けて新たに事業を開始した。

利用者の受け入れにあたっては、これまでの経過や利用者及びその家族等の意向を十分に尊重した結果となるよう特に留意して進めた。パンの袋詰め、事業所内外の清掃作業等、生産活動の機会を提供するとともに、企業等での就労を希望する利用者については、エルチャレンジの清掃作業に参加するなど、家族や関係機関等と連携して就労支援を実施した。実際に1名の利用者を他法人のA型事業所に送り出すことができた。

また、就労移行支援事業の延長申請期間が経過した後、企業とのマッチングがスムーズに行かなかった利用者で、引き続き一般就労を目指す人を対象にしたサービスとして、あくまでも就職を目指すためのプラスアルファ事業「さくらプラス」としての対象者については、令和4年度実績は1名にとどまった。

定員開差と利用者確保の問題もあり、B型事業のあり方としての検討が喫緊の課題である。

令和4年度工賃（就労継続B型）

月	工賃総額	支給対象者数	平均
4月	106,087	5	21,217
5月	89,301	5	17,860
6月	110,500	5	22,100
7月	127,915	5	25,583
8月	196,903	5	39,380
9月	167,198	5	33,439
10月	120,004	5	24,000
11月	133,864	5	26,772
12月	116,187	5	23,237
1月	124,150	6	20,691
2月	117,096	6	19,516
3月	128,061	6	21,343
年間	1,537,266	63	
平均	128,105	5.3	24,401

◎事業概況

(利用者の状況)

令和5年3月31日現在(人)

利用者/月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
就労継続A型	男性	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	女性	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
	計	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
	利用率(%)	44%	43%	36%	33%	29%	39%	40%	43%	41%	38%	43%	54%
就労継続B型	男性	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2
	女性	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	計	5	5	5	5	5	5	5	5	5	6	6	6
	利用率(%)	42%	50%	48%	47%	36%	41%	43%	41%	41%	51%	47%	46%

※利用率(%)：当月の延べ人数÷定員*開所日数

◎その他利用者情報(障害支援区分と援護市の状況)

令和5年3月31日現在(人)

事業名	就労継続支援A型	就労継続支援B型	
障害支援区分	区分6		
	区分5		
	区分4		2
	区分3	3	1
	区分2	2	2
	区分1		

	区分なし		1
援護市別利用者数	大東市 3 大阪市 2	大東市 2 大阪市 2 吹田市 1 寝屋川市 1	

(年齢の状況)

事業名		就労継続支援 A 型	就労継続支援 B 型
20 歳～29 歳	男	1	
	女	1	1
30 歳～39 歳	男		1
	女	1	2
40 歳～49 歳	男	1	1
	女	1	1
平均	男	35.5 歳	41 歳
	女	36.7 歳	36.8 歳

(就労継続支援 B 型平均工賃月額) 24,401 円/人

5. 就労定着支援事業

【事業概要】

就労移行支援などを利用して一般就労へ移行した障害者で、就労に伴う環境の変化により生活面で課題が生じている人に対し、雇用された企業などで就労の継続を図るため、企業・自宅等への訪問や障害者の来所により必要な連絡調整や指導・助言等を行うものである。

【令和 4 年度課題と取組】

事業利用中から退所後の本人の生活を意識し、当該事業に対する理解促進の機会を設定して、途切れない、分かりやすい、その人に合ったネットワークの構築に努めた。また、利用者及び家族が支援の必要性を理解した上で事業利用に繋げ、安定した就労継続のサポート体制の整備を心掛けた。

実施に当たっては、就職後半年以降は就労定着支援で毎月 1 回の訪問支援等を行い、職場内でのナチュラルサポートを目指して、就労先担当者との情報共有を行うとともに、フォローが必要な場合は障害者就業・生活支援センター等とも連携して支援を提供した。令和 4 年度の月平均の支援実績は 17.5 人であった。

【月別支援実績】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
男性	12	12	12	11	11	11	10	10	10	9	9	9
女性	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7

計	19	19	19	18	18	18	17	17	17	16	16	16
---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

支援センターしらすぎ

I 事業概要

1. 支援センターしらすぎ

堺市内における「就労を目指す日中活動先」としての役割を大切に、利用者のライフステージに応じた就労支援の実施を目指した。前年度に引き続き、新型コロナウイルスの感染状況に影響を受けた1年であったが、多機能型事業所のメリットを活かし、利用者の「働きたい！就職したい！」という願いに応えるべく、それぞれの状況に合わせたサービス提供に努めた。

自立訓練(生活訓練)事業では、社会生活に必要な知識や身につけておきたいスキルなど、グループワークやプログラムを通じて利用者自身が様々な経験を通して基礎的な力を習得してもらえるように支援した。

就労移行支援事業では、自立訓練事業を経て働くイメージができた利用者に対し、ビジネスマナーの習得や就職ガイダンス、面接練習など、実際の場面を想定して就労に向けた実践的なプログラムの提供に努めた。また、企業見学や実習などの施設外活動も積極的に行い、就労意欲を高めることへの支援にも力を入れて取り組んだ。

就労継続支援 B 型事業では、利用期限のない中でも、あきらめずに就労へチャレンジしたいというニーズに応えるべく、それぞれのペースに合わせた支援を提供するとともに、離職経験のある壮年期(40歳～64歳)の利用者においては、これからのライフステージに必要な健康管理やQOLの向上につながるようなプログラムを提供した。

就労定着支援事業では、月1回程度の訪問による支援を中心に、電話や来所相談の実施とあわせて、利用者が安心して働き続けることができるよう、ご本人を取り巻く就労先等の状況把握を行い、必要に応じて関係機関と連携をとりながらの支援に努めた。また、3年半の利用期限を迎えた利用者については、これまでの支援経過を就業・生活支援センター等に丁寧に引継ぐとともに、サービス終了後も必要に応じて関係機関連携による支援が可能なネットワーク形成に注力した。

2. ホームズしらすぎ

「ホームズしらすぎ」は、平成29年4月に日置荘原寺町にて地域生活を支援する拠点として開設し6年目を迎えた。共同生活援助事業は計11か所のグループホームを運営し、その支援体制が機能的に働くように職員・世話人同士のコミュニケーションを大切に、コロナ禍においても、利用者一人ひとりが安心して安全な生活が送れるように、その調整に努めた。

短期入所事業は、感染者数が拡大した5月以降、法人全体の陽性者療養支援スペースとして提供するため、12月まで休止。期間中に新型コロナウイルス感染症に罹患した7名のホームズしらすぎ利用者をはじめ、法人内他拠点からの療養ニーズに対応した。

共同生活援助事業(グループホーム)においても、外出や交流等の活動に制限が加えられ、それらは年間を通して利用者の生活に影響を及ぼした。住居内における手洗い、手指消毒、マ

スク着用の励行や、換気および定時消毒、部屋食など、コロナ感染症により増加した支援業務を継続した。また、ワクチン接種については、そのメリットとデメリットを利用者一人一人に説明し、希望する利用者に対して、接種にまつわる支援全般に取り組んだ。

II 事業内容

1. 支援センターしらさぎ（定員 40 名）

- | | |
|---------------|---------|
| ○自立訓練（生活訓練）事業 | 定員 6 名 |
| ○就労移行支援事業 | 定員 10 名 |
| ○就労継続支援 B 型事業 | 定員 24 名 |
| ○就労定着支援事業 | |

2. ホームズしらさぎ

- | | |
|-----------|---------|
| ○共同生活援助事業 | 定員 49 名 |
| ○短期入所事業 | 定員 6 名 |

III 令和4年度重点課題とその取り組み

1. 地域で選ばれる事業所を目指し、経営の安定を図ります。

- あきらめずに就労へチャレンジしたいというニーズに応えられるよう、ひとり一人の障がい特性等に配慮し、必要に応じて空間をパーティションで仕切るなど環境整備に努めた。また、パソコン入力や資格取得のための勉強など、個別のニーズに対応した取り組みを提供した。また、これからのライフステージに備え、塗り絵や絵画などの芸術活動やグランドゴルフ、ウォーキングといった運動等、健康管理やQOLの向上につながるようなプログラムを提供した。加えて、新たな利用者獲得に向けて、積極的に各学校等が主催する事業所説明会に出かけ、やエリア内支援学校進路関係機関連絡会に出かけ、センターの活動 PR に努めた。
- グループホームの空き室の解消のための取り組みとして、堺市内の相談支援事業所や支援学校等へ定期的に FAX 送信を行った結果、新規入居希望者を得ることができた。
- 短期入所事業については、法人全体の陽性者支援スペースとして令和 4 年 5 月から 12 月まで休止。しらさぎエリアの利用者をはじめ、法人内他エリアのニーズを受け入れ陽性者支援を実施した。令和 5 年 1 月以降は週 1 日開所で事業を再開している。

2. センター（日中）とホームズ（生活）の協働。

- 休日プログラムについては、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、年度を通じて実施することができなかった。センターにおいては、昨年度コロナ化で実施した半日のお楽しみ行事を発展させ、12 月にプチしらさぎまつりとして、外部ゲスト等を招いての終日イベントを開催した。
- しらさぎエリアの業務の連携
センターの職員配置減により、日中支援職員の短期入所配置は中止したが、コロナ禍での陽

性者支援やホーム利用者の通院支援等において、センター職員の応援体制を整え有事に備えた。また、センター、ホームズともに利用されている方については、サイボウズ等での日常的な情報交換をはじめ、支援に必要な情報等を定例の会議で共有し検討する等、日中から生活へ繋がりのある支援の提供に努めた。

3. ライフステージに応じた日中支援事業の選択を提案し、利用者のニーズに合致した支援を行います。

○広がるニーズへの対応

就労支援においては、就労担当者と利用者担当の連携を密にして、就職に向けた課題を共有し、利用者一人ひとりの普段の作業活動から必要なアセスメントを行うとともに、企業見学や体験実習先を提供し、チャレンジする気持ちを引き出す取り組みを実施した。

就労継続B型事業では、「就労をあきらめずチャレンジを続ける」ことができる環境整備と併せて、これからのライフステージに応じた趣味の開拓やQOLの向上に繋がるプログラムを提供した。

4. 風通しの良い事業運営体制の強化と、安心・安全な生活支援の提供

○風通しの良い事業運営

Hしらさぎでは、貴重金品預かりサービスの導入に伴い、改めて利用者の預かり金や貴重品を管理するための内部牽制体制を強化した。また、必要に応じて成年後見制度や日常生活自立支援事業の活用を進める等、適切な支援に取り組んだ。

また、利用者支援にあたっては、ケースワークに必要な情報等を相談支援事業所をはじめとした関係機関と共有し、支援の方向性についての意見交換を積極的に行うなど、風通しの良い事業運営に努めた。

○感染症や災害等に備えた危機管理体制の整備

新型コロナウイルス感染者や災害等が発生した場合でも、事業が継続できるように事業継続計画(BCP)を作成した。また、年2回の避難訓練の実施に取り組んだ。利用者の新型コロナウイルスワクチン接種に関する意思決定支援については、メリットとデメリットをわかりやすく説明し、利用者が自ら接種の判断ができるよう支援した。

○支援の質向上・人材の確保

キャリアパス研修制度を軸に、WEBを活用しながら各職員に研修受講の機会を設けた。世話人への研修についても、定例ミーティングの機会等を活用してホームズの拠点にてwebで受講できる体制を整え実施した。また慢性的に不足する世話人・支援員の確保に向けて求人サイトの積極的な活用や関係機関との連携を強化して人材の確保をすすめ、利用者が安心・安全な生活が送れるように取り組んだ。

IV 年間行事、日課など

1. 日課

※ コロナ禍につき、休憩や給食は2グループに分かれる

午 前		午 後	
8:15～	通所	11:45～13:15	昼食・休憩
9:00～	体操	12:45～15:00	作業
9:20	朝礼	15:30	清掃、終礼
9:30～12:15	作業	16:00	終了、帰宅

2. 年間行事 ※ コロナ禍につきほとんどの行事は中止

月	自立訓練事業・就労移行支援事業・ 就労継続支援 B 型事業	共同生活援助
4月		
5月		
6月		
7月		
8月		
9月	・大阪大会	
10月		・世話人研修(人権研修)
11月	・利用者健康診断 ・日帰り旅行 ・プチしらすま祭り	
12月		
1月	・進路懇談会	
2月		・世話人研修
3月	・避難訓練	
・毎月:土曜日開所 (2回) ・毎月: ・不定期: 家族会		

V 事業概況

1. 利用者の状況

①自立訓練(生活訓練)・就労移行・就労継続 B 型・就労定着 (人)

利用者/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
在籍者	38	38	38	37	37	37	37	36	36	36	35	35
当月入所者	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当月退所者	2	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0

自立訓練	男性	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2
	女性	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	計	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4	4
	利用率	27.6	65.9	63.2	32.1	52.8	64.6	60.4	65.9	65.2	67.5	63.5	51.4
就労移行	男性	10	9	8	8	8	8	7	6	6	6	6	6
	女性	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2
	計	13	12	11	11	11	11	10	9	9	8	8	8
	利用率	94.9	137.5	131.8	125.6	87.5	89.2	86.4	83.6	75.0	70.5	74.8	75.8
就労継続B型	男性	17	18	19	18	18	18	18	19	19	19	19	19
	女性	3	3	3	3	3	3	3	3	3	4	4	4
	計	20	21	22	21	21	21	21	22	22	23	23	23
	利用率	127.3	72.7	75.6	72.7	70.8	66.2	62.5	74.7	77.3	77.9	77.8	81.6
就労定着	契約者	14	14	13	14	14	14	15	15	15	15	15	14
	実績	14	14	12	13	13	13	14	14	14	14	13	13

※利用率(%) : 当月の延べ人数 ÷ 定員 * 開所日数

その他利用者情報(障害支援区分と援護市の状況)

(人)

事業名		自立訓練	就労移行	就労継続B型	共同生活援助
障害支援区分	区分6				2
	区分5			1	7
	区分4	1		3	7
	区分3		1	1	15
	区分2	1	1	8	13
	区分1			2	2
	区分なし	2	6	8	0
援護市別利用者数		堺市 4	堺市 7 富田林市 1	堺市 21 富田林市 1 松原市 1	堺市 37 泉大津市 3 高石市 2 八尾市 2 大阪市 1 和泉市 1

(年齢の状況)

(人)

事業名		自立訓練	就労移行	就労継続B型	共同生活援助
19歳以下	男				
	女	1			1
20歳～29歳	男	2	6	7	4
	女	1	2	1	2

30歳～39歳	男			3	5
	女				1
40歳～49歳	男			3	9
	女			3	4
50歳～59歳	男			4	11
	女				2
60歳～69歳	男			2	6
	女				1
70歳以上	男				
	女				1
平均	男	20.5	23.5	40.4	47.0
	女	20	23	38	45.2
		20.3	23.4	40	46.5

2. 短期入所の実施状況(ホームズしらさぎ)

利用量\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
1泊2日	31	14	0	0	0	0	0	0	12	11	16	17	101
2泊3日	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
緊急一時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
宿泊延べ日数計	73	34	0	0	0	0	0	0	24	16	38	34	219

3. 就労支援の状況(支援センターしらさぎ/実習実績、工賃支給実績、就ポツ、JC、エルチャレなど)

① 求職・就職・実習の実績

月	職安	面接	就職	実習
4	0	1	0	18
5	2	1	0	33
6	2	0	0	34
7	4	1	1	50
8	1	1	0	37
9	0	0	1	19
10	2	2	0	23
11	10	0	1	10
12	4	1	1	11
1	6	0	0	7
2	7	1	0	21

3	2	3	1	14
計	40	11	5	277

職安・・・支援員動向による求職活動支援人数(単独で行われた分は計上しない)

面接・・・合同面接会は未実施のため含まない。(ミニ面接会は含む)

② 就職先の業種(内容)

・保育園(清掃) ・物流倉庫 ・税務署(清掃) ・印刷業

③ 実習先の業種(内容)

・製造業(製品組立) ・おしぼり工場 ・エルチャレンジ(清掃訓練) ・民間マンション清掃
 ・スーパー ・調理補助 ・特例子会社(清掃) ・アパレル(バックヤード)、事務補助

④ 平均工賃(1人当たり:月額)

	就労継続B型	就労移行・自立訓練
4月	6,101円	12,592円
5月	6,358円	11,448円
6月	7,136円	14,325円
7月	6,443円	12,534円
8月	6,529円	10,031円
9月	4,685円	10,513円
10月	4,666円	10,108円
11月	6,097円	9,100円
12月	6,483円	9,277円
1月	5,776円	7,658円
2月	6,330円	7,708円
3月	7,502円	7,703円
月平均支給額	6,188円	10,447円

⑤ 職場適応援助者(ジョブコーチ)支援制度実績・・・今年度実支援人数 10名

使用者(障害種別内訳)

知的障害			精神障害	身体障害	その他	合計
B2	B1	A				
4	4	1	(1)	0	1	10

※()重複者数

活動実績(延べ件数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人員	5	3	3	3	4	5	3	3	3	3	4	2	41
延べ支援件数	16	7	6	13	15	10	10	8	11	10	10	3	119

支援センターねぎぼうず

I 事業内容

生活介護事業	定員 20 名（現員 14 名）
--------	------------------

II 事業概要

新型コロナウイルス感染症から3年間、外向きの活動がままならず、日中活動や行事等、館内での実施が中心であったが、外出等合わせて外向きな活動へ転換を行った。また、昨年4月から利用者が1名増え、今までのように送迎車1台での対応が難しくなり、もう1台購入をして2台で送迎対応を行い、平行してサービス提供利用時間を延ばす変更を行った。送迎車については、増車したことにより、業者への納品受領や買い出し行事等でも活用し事業展開に貢献できた。建設から15年が経ち、経年劣化や大正区の浜風の強い区域でもあり外壁、屋根の防水塗装修繕工事を年度末に行った。魅力ある事業所を目指し、安心安全も変わらず確保できるように、利用者の希望と家族会からの意見に耳を傾け事業運営に取り組んだ。

III 令和4年度の重点課題

○体を動かせる機会の確保について

新型コロナウイルス感染症を防止しながら、体を動かせる機会の確保をした。体操教室はWebを活用しながら継続、散歩の頻度を1週間に1回程度は実施するように努め、地域清掃ボランティア、外部販売、社会見学、地域小学校との交流、地域のお祭り、ごくろうさん会等外出を含めた取り組みを行った。

○製菓販売経路、下請け作業の確保について

製菓の販売や下請業者の確保に努めた。製菓については、お客様の声を参考に、改良と試作、材料費高騰により材料業者を変える等を実施した。

下請け加工では、職員ばかりが忙しい工程を作らず利用者全員が関わられるように工程の見直しと、それに見合う工賃額の検討を行った。

○利用者確保について

支援学校、地域の相談支援事業所に利用希望者の聞き取りや、SNS（インスタグラム、フェイスブック）、ホームページ、コミュニティーセンター等パンフレットの掲示を行い、事業所の広報に努めた。

○職員体制の確保について

6月末、3月末でそれぞれ1名の計2名の退職者が出た。ハローワークやWeb求人への登録、ねぎぼうず外館へ求人票の貼りだし、コミュニティーセンターへ求人票提示を行った。また、11月にジョブギアの求人から時給のフルタイムを採用に繋がり、手厚い支援を行うことができた。

○利用者、家族のニーズについて

GH、ショートや家族援助、身体援助、通院介助、外出援助のニーズについて、上記の希望はありながら、相談支援事業所と家族がなかなか話しあえてないことから、ねぎぼうず職員が間接的に関わり橋渡しを行った。

○ワクチン接種について

新型コロナウイルス感染症、インフルエンザのワクチン接種の実施をセンター中、嘱託医、看護師と連携して実施した。

IV その他

日課

【日課—平日】

時 間	日 課	備 考
10:00	通所 朝礼 ラジオ体操、水分補給	4月から送迎車2台で対応
10:30	作業開始	
11:00	水分補給（5分～10分）	
12:00	昼食・休憩	
13:00	作業開始	金曜日のみ
14:00	水分補給・ラジオ体操（10分）	14:00 多種の体操
15:00	作業終了、水分補給	14:40 喫茶
15:50	終礼	
16:00	降所	
		※第1水曜日は職員会議のため午前日課スケジュール。
		※現状は全員が送迎車利用です。

【日 課—土曜開所】

時 間	日 課	備 考
10:00	通所 朝礼 ラジオ体操、水分補給	*土曜日（余暇・創作的活動） 外部ボランティア、外出、季節の行事等、センターカレンダーにて周知。
10:30	余暇・創作的活動	
11:00	水分補給	
12:00	昼食・休憩	
13:50	終礼	

14 : 00	降所	
---------	----	--

年間行事等予定

月	内 容	月	内 容
4 月	社会見学（堺市防災センター見学）	10 月	大正区民祭り/親の会定例会 日帰り旅行中止/健康診断 インフルエンザ予防接種
5 月	避難訓練	11 月	地域交流きらめきパーティー 健康診断
6 月		12 月	クリスマス会/親の会定例会 冬期休所（12/29～）
7 月		1 月	冬期休所～1/3、初詣（午前日課）、 新年会（午前日課）
8 月	夏期休所（8/12） 夏祭り（午前日課）	2 月	避難訓練
9 月	大阪大会（堺市）販売のみ	3 月	ごくろうさん会（大正区コミュニ ティーセンターにて、親の会も別 室で実施） ボーナス支給/親の会定例会
<p>毎月・月 1～2 回近隣公園清掃ボランティア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 25 日工賃支給日（休、祝日の時は前倒しで支給）/ 3 月ボーナス支給 ・ 第 1 水曜日（職員会議のため）午前日課 ・ 月 1 回医師、看護師による訪問相談、バイタルチェック ・ 毎週金曜日 14 : 40～喫茶 ・ 第 4 月曜日 13 : 00～15 : 00 保護者会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 隔週金曜日 11 : 00～13 : 00 大正区役所製菓（クッキー、ケーキ）販売 ・ 月 2 回の水曜、OT による健康体操・レクリエーション（Web） <p>不定期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 例年実施していた、入浴サービス、調理実習は新型コロナウイルス感染症の経過観察中のため、実施検討中。 			

V 事業概況

1. 利用者の状況

①生活介護事業

(人)

利用者／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
在籍者	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14
当月入所者	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当月退所者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
生活介護	男性	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
	女性	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
	計	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14
	利用率	54. 8	51. 5	54. 5	49. 3	52. 0	53. 0	54. 1	53. 6	55. 0	54. 6	54. 0

※利用率(%)：当月の延べ人数÷定員*開所日数

②利用者情報（障害支援区分と援護市の状況）

(人)

事業名	生活介護	就労移行	就労継続B型	共同生活援助
障害支援区分	区分6	4		
	区分5	6		
	区分4	4		
	区分3			
	区分2			
	区分1			
	区分なし			
援護市別利用者数	大阪市14名			

③年齢の状況

(人)

事業名		生活介護	就労移行	就労継続B型	共同生活援助
20歳～29歳	男	3			
	女	1			
30歳～39歳	男	1			
	女	1			
40歳～49歳	男	1			
	女	2			

50歳～59歳	男	2			
	女	3			
60歳～69歳	男				
	女				
70歳以上	男				
	女				
平均	男	45			
	女	35			

④工賃実績・開所日

月	開所日	人数	総支払額	平均金額
4月	22	13	48,200	3,707
5月	23	13	47,400	3,646
6月	22	13	48,000	3,692
7月	22	13	43,400	3,338
8月	23	13	47,800	3,676
9月	22	13	46,600	3,584
10月	23	12	49,800	4,150
11月	22	13	47,200	3,630
12月	23	13	50,200	3,861
1月	22	13	48,400	3,723
2月	20	13	43,200	3,323
3月	23	13	50,600	3,892
ボーナス			260,100	20,007
平均利用日数 ・工賃額	244	平均利用日 数 219.5 日	総支給額 839,000 円	平均工賃（月額） 3,685 円

※平均工賃（年額）**63,915 円**